

2019年度中間期 会社説明会

2019年11月26日



北陸銀行



北海道銀行

目次

・はじめに(プロフィール)		1			
【Ⅰ. 2019年度中間期決算概要】			【Ⅱ. 経営戦略】		
・損益概要		3	・中期経営計画「ALL for the Region」		24
・資金利益		9	・法人戦略		27
・円貨預貸金利回り		10	・個人戦略		29
・預金・譲渡性預金		11	・デジタル化・Fintech戦略		31
・貸出金		12	・地域社会活性化戦略		32
・有価証券		15	～ESG/SDGsへの取り組み～		
・役務取引等利益		16	・業務改革・店舗最適化・人財活用戦略		34
・経費		17	・グループ総合力の発揮		35
・与信費用		18			
・金融再生法開示債権		19			
・現金・貸出金見通し		20			
・有価証券見通し		21			
・自己資本比率		22			
・業績予想		23	【別冊】参考資料		



ほくほくフィナンシャルグループSDGs宣言 (2019.4.1)

ほくほくフィナンシャルグループは、「地域共栄」「公正堅実」「進取創造」の経営理念のもと、国際連合が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）の視点を踏まえたCSR活動に積極的に取り組むことにより、地域経済、地域社会の Sustainability（持続可能性）の向上を目指してまいります。

はじめに

「ほくほくフィナンシャルグループ」は、広域地域金融機関グループとしてのネットワークと総合的な金融サービス機能を活用して、地域とお客さまの繁栄に貢献し、ともに発展しつづけます。



取締役社長 庵 栄伸
(北陸銀行 頭取)

取締役副社長 笹原 晶博
(北海道銀行 頭取)

経営理念

- 地域共栄** : 社会的使命を實踐し、地域社会とお客さまとともに発展します。
- 公正堅実** : 公正かつ堅実な経営による健全な企業活動を目指し、信頼に応えます。
- 進取創造** : 創造と革新を追及し、活力ある職場から魅力あるサービスを提供します。

プロフィール

(2019年9月末現在)



設立 : 2003年
本店所在地 : 富山市
資本金 : 708億円
自己資本比率 : 9.29%
格付 : A (R&I)



設立 : 1943年
(創業1877年)

本店所在地 : 富山市

店舗数 : 国内187(支店145・出張所42)
海外6

従業員数 : 2,654人
(在籍ベース)

資本金 : 1,404億円

自己資本比率 : 8.92%

格付 : A (R&I) ・ A- (S&P)



設立 : 1951年

本店所在地 : 札幌市

店舗数 : 国内144(本支店136・出張所8)
海外3

従業員数 : 2,346人
(在籍ベース)

資本金 : 935億円

自己資本比率 : 8.98%

格付 : A (R&I)



I . 2019年度中間期 決算概要

損益概要（2行合算）

（億円）

【ほくほくFG連結】	19/9期				18/9期
	期初 予想	実績	18/9期比 増減	期初 予想比	
経常利益	155	174	△ 20	19	194
親会社株主に帰属する中間純利益	95	116	△ 23	21	139
【2行合算】	19/9期				18/9期
	期初 予想	実績	18/9期比 増減	期初 予想比	
コア業務粗利益	625	613	△ 26	△ 11	640
資金利益		528	△ 23		552
うち貸出金利息		421	△ 13		435
うち有価証券利息		116	△ 18		135
役務取引等利益		80	△ 3		83
特定取引利益		0	△ 0		0
その他業務利益(国債等債券損益を除く)		4	0		4
経費(△)(臨時処理分を除く)	435	430	△ 7	△ 4	437
コア業務純益	190	183	△ 19	△ 6	203
(投資信託解約損益を除く)		169	△ 19		189
国債等債券損益		37	47		△ 9
実質業務純益(※)		221	27		193
一般貸倒引当金繰入(△)		11	12		△ 0
臨時損益		△ 32	△ 44		12
うち不良債権処理額(△)		39	33		6
うち株式等損益		4	△ 16		21
経常利益	165	177	△ 28	12	206
特別損益		△ 7	0		△ 7
法人税等(△)		45	3		42
中間純利益	110	124	△ 31	14	155
(参考)与信費用(△)	33	51	45	18	5

※実質業務純益…「業務純益(一般貸倒引当金繰入前)」と同義

決算のポイント

・2行合算のコア業務粗利益は、貸出金利息・有価証券利息の減少を主因に、前中間期比26億円減少の613億円、経費の減少により一部カバーし、コア業務純益は前中間期比19億円減少、期初予想を6億円下回る183億円の実績。

・連結経常利益は、与信費用の増加、株式等損益の減少を、国債等債券損益の改善により一部カバーし、前中間期比20億円減少も、期初予想を19億円上回る174億円の実績。

・連結中間純利益は、期初予想を21億円上回る116億円の実績。

■ 資金利益

利回り低下を主因として貸出金利息が13億円、有価証券利息が18億円減少

■ 経費

人件費の減少により7億円減少

■ 国債等債券損益

■ 株式等損益

国債等債券損益が47億円増加、株式等損益が16億円減少

■ 与信費用

貸倒引当金繰入額の増加により、45億円増加

損益概要（北陸銀行）

【北陸銀行】	19/9期				(億円)
	期初 予想	実績	18/9期比 増減	期初予想比	18/9期
コア業務粗利益	335	333	△ 16	△ 1	350
資金利益		277	△ 19		296
うち貸出金利息		214	△ 9		224
うち有価証券利息		70	△ 15		86
役務取引等利益		52	2		49
うち役務取引等収益		89	2		86
うち役務取引等費用(△)		37	0		36
特定取引利益		0	△ 0		0
その他業務利益(国債等債券損益を除く)		4	△ 0		4
経費(△)(臨時処理分を除く)	230	230	△ 4	0	235
コア業務純益	105	102	△ 11	△ 2	114
(投資信託解約損益を除く)		95	△ 8		104
国債等債券損益		25	28		△ 3
実質業務純益(※)		127	16		110
一般貸倒引当金繰入(△)		10	10		—
臨時損益		△ 17	△ 33		15
うち不良債権処理額(△)		32	32		△ 0
うち株式等損益		4	△ 9		13
経常利益	95	99	△ 27	4	126
特別損益		△ 6	0		△ 6
法人税等(△)		26	△ 0		27
中間純利益	60	65	△ 26	5	92
(参考)与信費用(△)	18	42	43	24	△ 0

※実質業務純益…「業務純益(一般貸倒引当金繰入前)」と同義

決算のポイント

・資金利益の減少を主因に、コア業務純益は前中間期比11億円減少の102億円の実績。
 ・与信費用の増加などを国債等債券損益の改善により一部カバーし、経常利益は前中間期比27億円減少の99億円、中間純利益は同26億円減少の65億円の実績。

■ 資金利益

利回り低下を主因として貸出金利息が9億円、有価証券利息が15億円減少

■ 役務取引等利益

保険手数料の増加などにより2億円増加

■ 経費

人件費の減少により4億円減少

■ 国債等債券損益

■ 株式等損益

国債等債券損益が28億円増加、株式等損益が9億円減少

■ 与信費用

貸倒引当金繰入額の増加により、43億円増加

損益概要（北海道銀行）

【北海道銀行】	19/9期				18/9期
	期初 予想	実績	18/9期比 増減	期初予想比	
コア業務粗利益	290	280	△ 10	△ 9	290
資金利益		251	△ 4		256
うち貸出金利息		206	△ 4		211
うち有価証券利息		45	△ 3		49
役務取引等利益		28	△ 5		33
うち役務取引等収益		77	△ 6		84
うち役務取引等費用(△)		49	△ 1		50
その他業務利益(国債等債券損益を除く)		0	0		0
経費(△) (臨時処理分を除く)	205	199	△ 2	△ 5	201
コア業務純益	85	80	△ 7	△ 4	88
(投資信託解約損益を除く)		73	△ 10		84
国債等債券損益		12	18		△ 6
実質業務純益(※)		93	11		82
一般貸倒引当金繰入(△)		0	1		△ 0
臨時損益		△ 14	△ 11		△ 3
うち不良債権処理額(△)		7	0		6
うち株式等損益		0	△ 7		8
経常利益	70	78	△ 1	8	80
特別損益		△ 0	0		△ 0
法人税等(△)		19	3		15
中間純利益	50	58	△ 5	8	63
(参考)与信費用(△)	15	8	2	△ 6	6

※実質業務純益…「業務純益(一般貸倒引当金繰入前)」と同義

決算のポイント

・資金利益および役務取引等利益の減少により、コア業務純益は前中間期比7億円減少の80億円の実績。
 ・国債等債券損益の改善により、経常利益は前中間期比1億円減少の78億円、中間純利益は同5億円減少の58億円の実績。

■ 資金利益

利回り低下を主因として貸出金利息が4億円、有価証券利息が3億円減少

■ 役務取引等利益

投資信託、保険手数料の減少などを主因に、5億円減少

■ 経費

人件費の減少により2億円減少

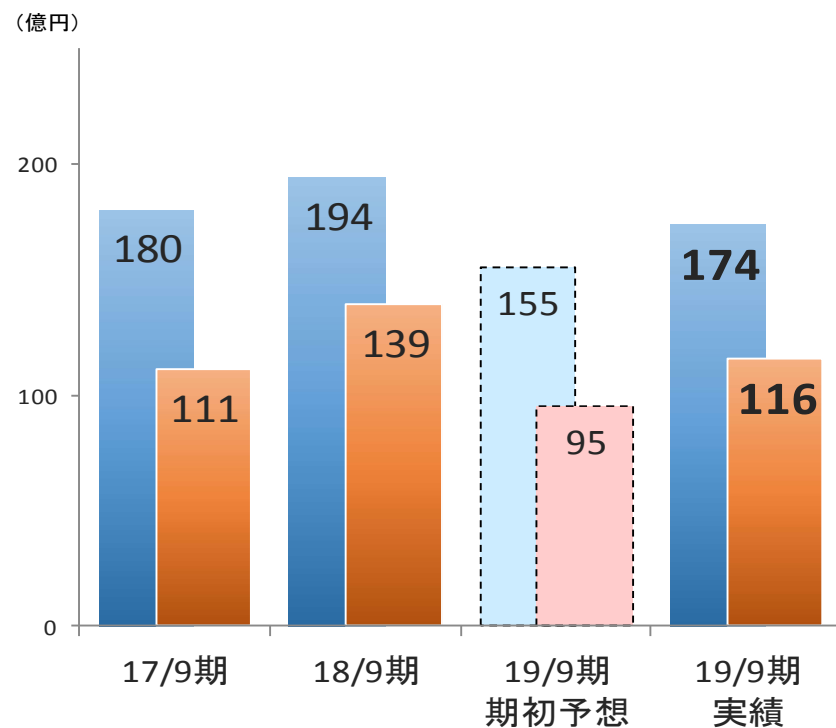
■ 国債等債券損益

■ 株式等損益

国債等債券損益が18億円増加、株式等損益が7億円減少

損益概要（時系列推移）

損益＜ほくほく F G 連結＞



■ 連結経常利益

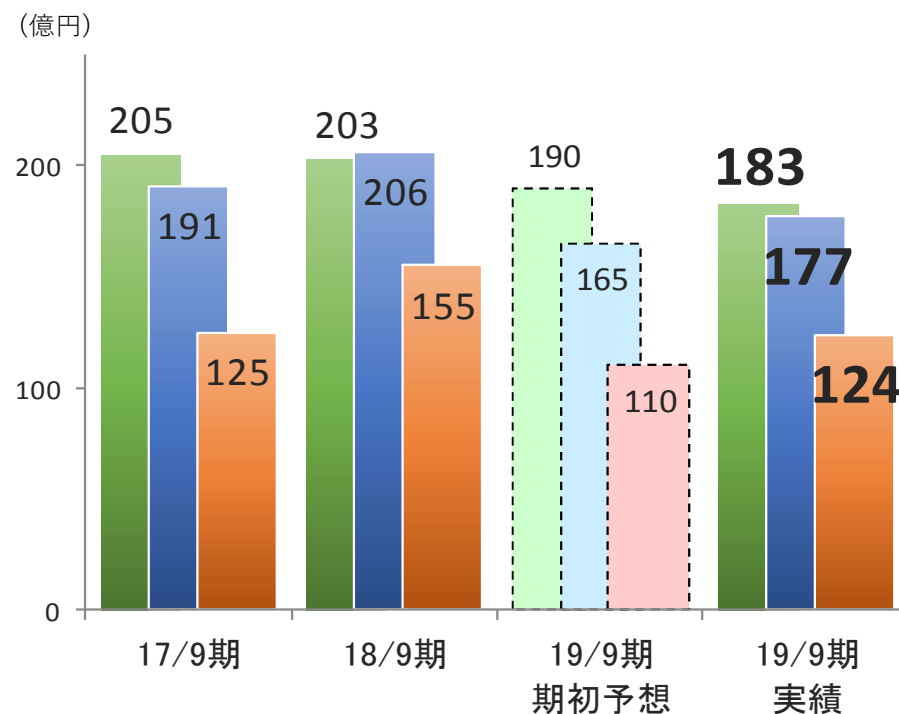
■ 連結中間純利益

(親会社株主に帰属する中間純利益)

連結経常利益 174億円 (18/9期比△20億円)

連結中間純利益 116億円 (18/9期比△23億円)

損益＜北陸銀行・北海道銀行 2 行合算＞



■ コア業務純益

■ 経常利益

■ 中間純利益

コア業務純益 183億円 (18/9期比△19億円)

経常利益 177億円 (18/9期比△28億円)

中間純利益 124億円 (18/9期比△31億円)

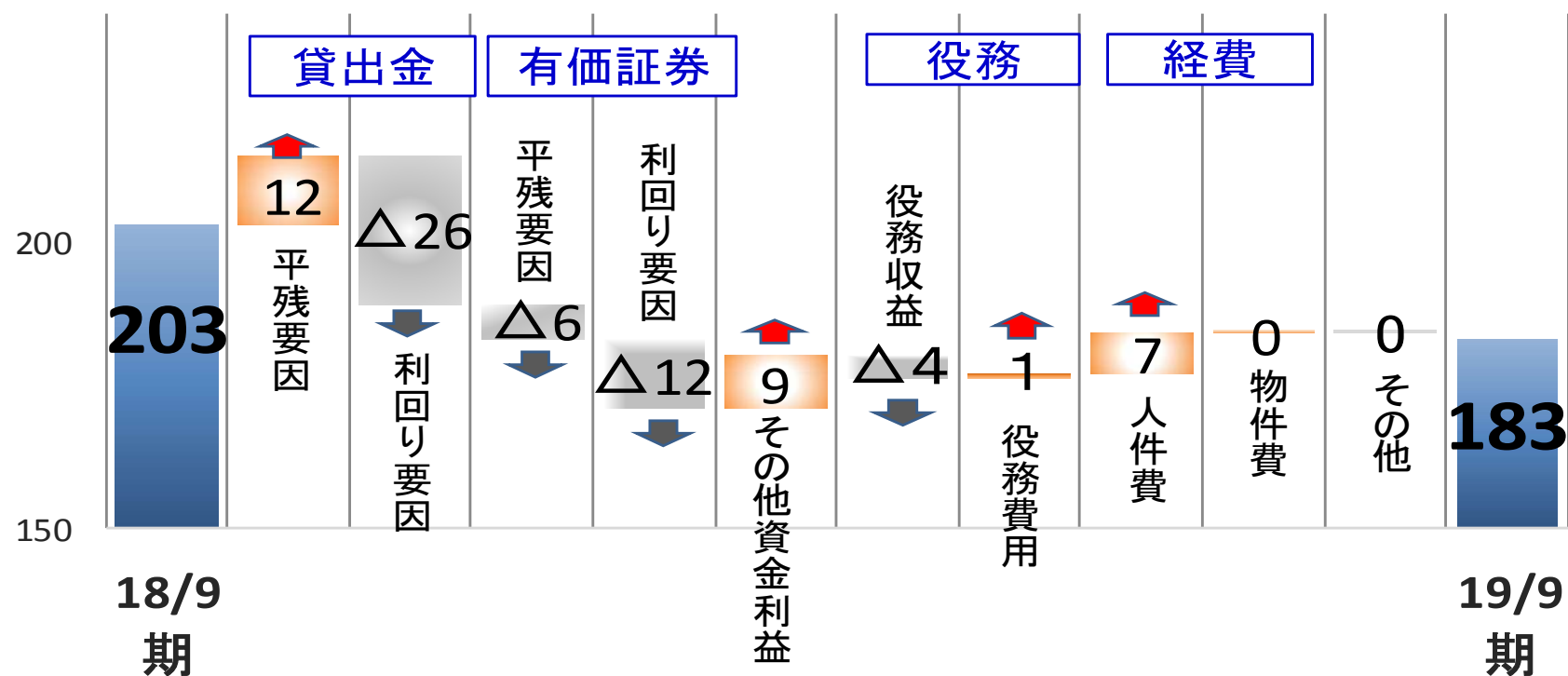
損益概要（コア業務純益増減要因）

利回りの低下を主因とする資金利益の減少を、経費削減等で一部カバーし、2行合算のコア業務純益は、前中間期比19億円減少、期初業績予想を6億円下回る183億円となりました

コア業務純益増減要因

（億円）

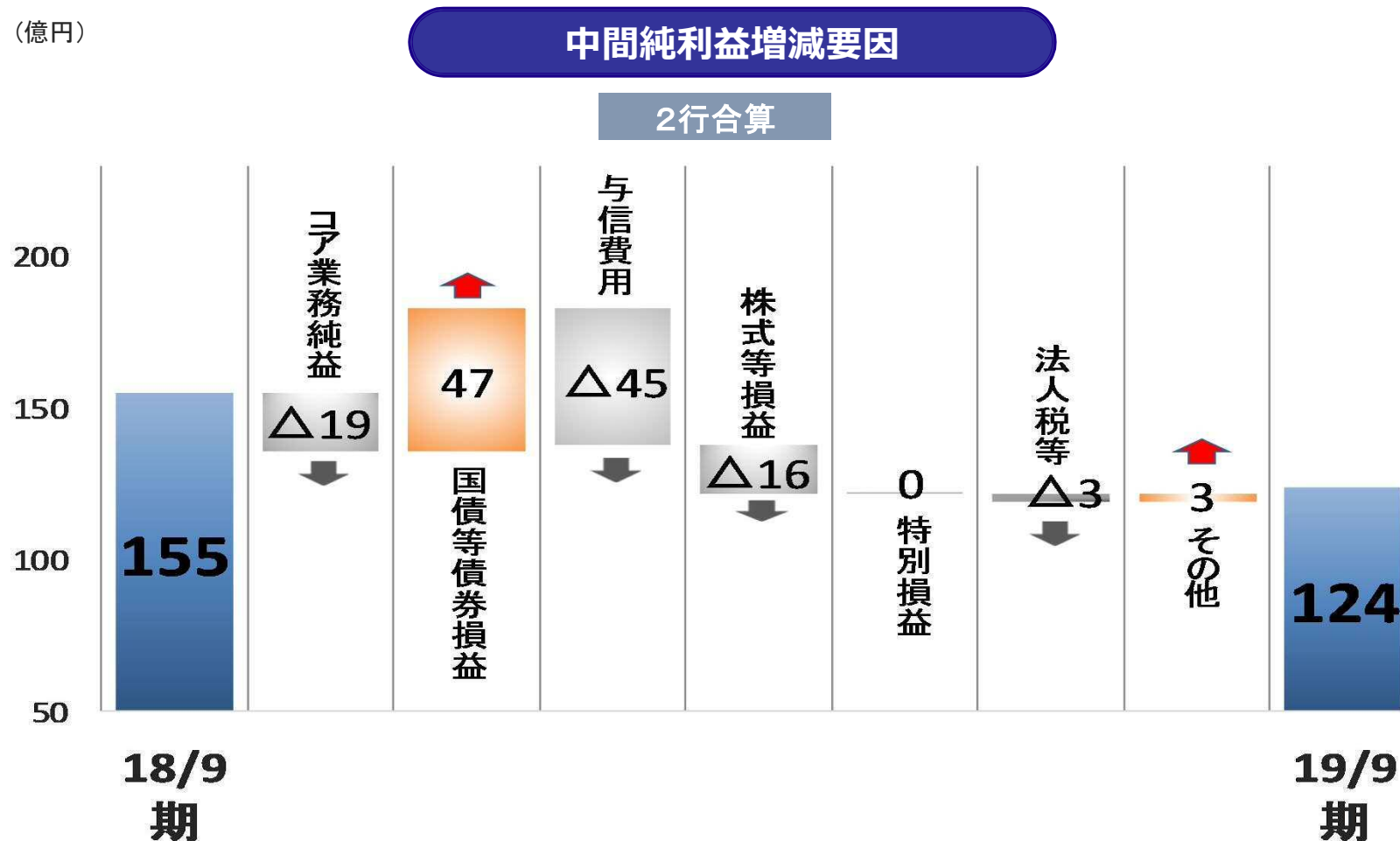
2行合算



損益概要（中間純利益増減要因）

コア業務純益および株式等損益の減少、与信費用の増加を、市場環境見通しを踏まえた外債およびREITの売却による国債等債券損益の増加より一部カバーし、2行合算の中間純利益は、前中間期比31億円減少も、期初予想を14億円上回る124億円となりました。

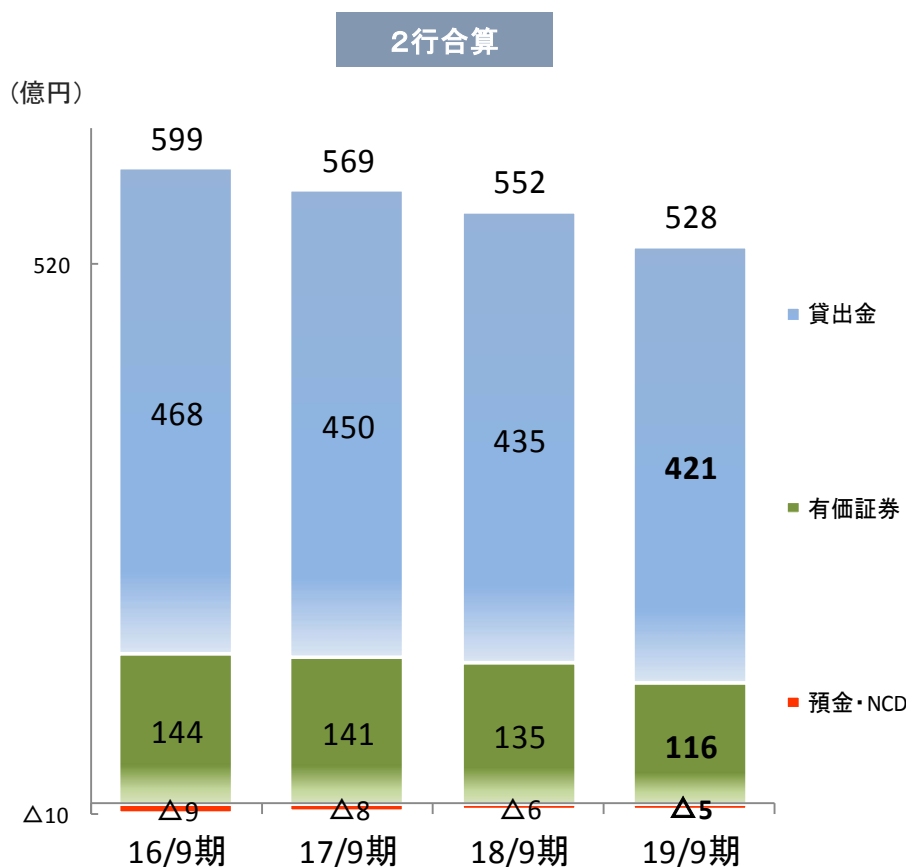
（億円）



資金利益

貸出金利息は、前中間期比13億円減少し421億円の実績。有価証券利息は、国債の満期償還や利回り低下などにより同18億円減少の116億円の実績となりました。

資金利益



(億円)

【2行合算】	19/9期	増減額	18/9期
資金利益	528	△ 23	552
貸出金利息	421	△ 13	435
有価証券利息	116	△ 18	135
預金・NCD利息(△)	5	△ 0	6

〈利息増減要因〉

(億円)

【2行合算】	平残要因	利回要因
貸出金	12	△ 26
有価証券	△ 6	△ 12
預金・NCD(△)	0	△ 0

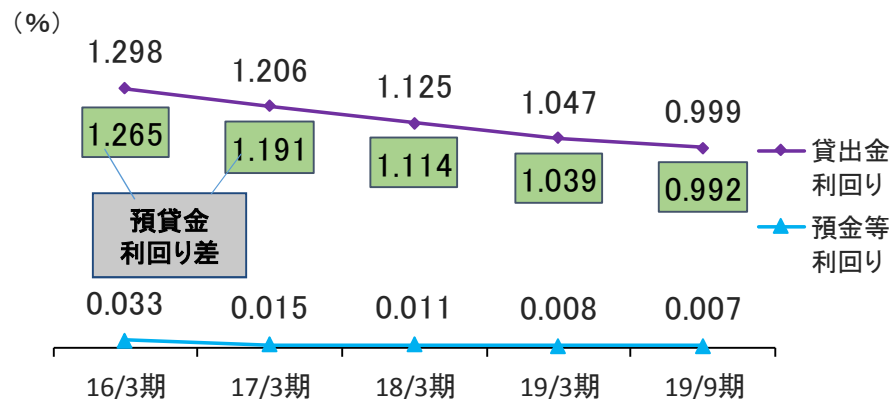
(億円)

【2行合算】		19/9期	増減額	18/9期
貸出金	平均残高	83,827	2,363	81,463
	利回り	1.00%	△0.06%	1.06%
有価証券	平均残高	17,319	△ 947	18,266
	利回り	1.34%	△0.14%	1.48%
預金・NCD	平均残高	115,227	2,503	112,724
	利回り	0.01%	0.00%	0.01%

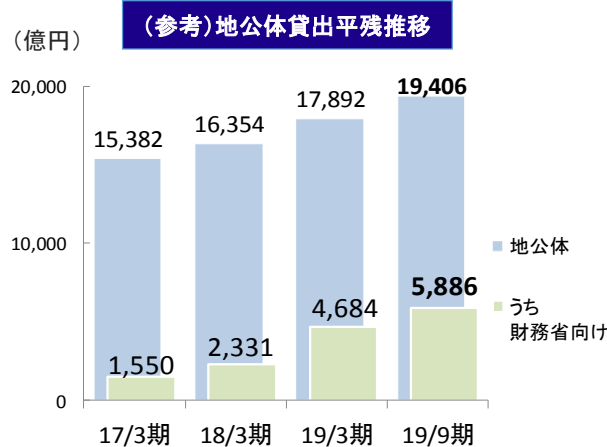
円貨預貸金利回り (内部管理ベース)

円貨貸出金利回りは、低金利の地公体向け貸出のウェイトが増加したことにより、前期比▲0.048ポイント低下の0.999%となりました。事業性貸出の利回り低下幅は0.013ポイントに縮小しております。

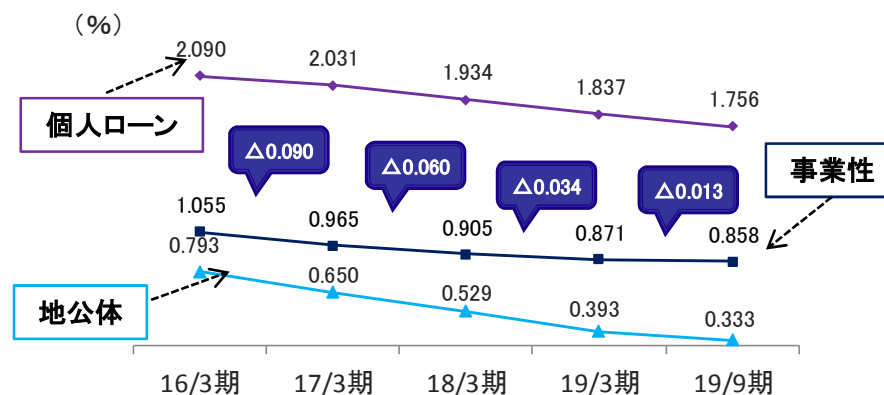
円貨預貸金利回り差



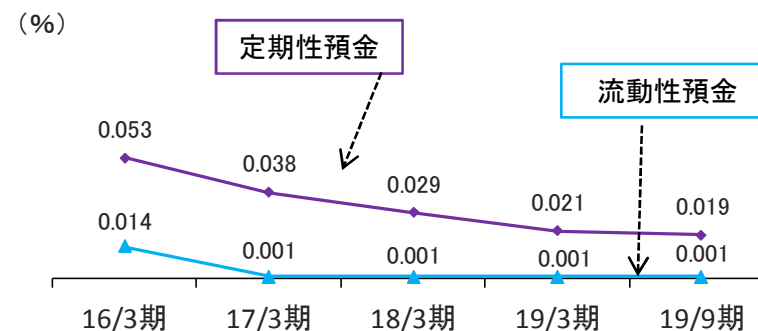
※マイナス金利政策導入
(2016年2月)



円貨貸出金利回り



円貨預金利回り

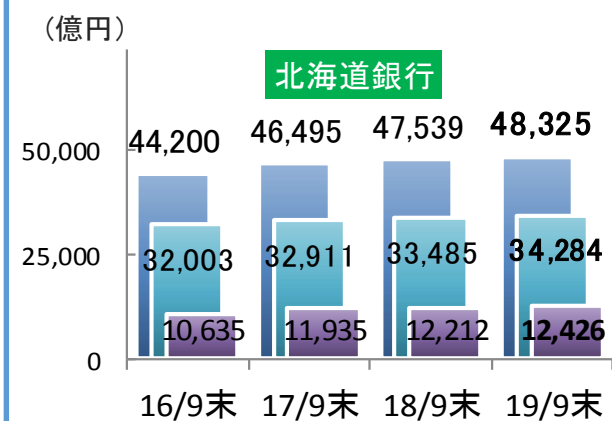
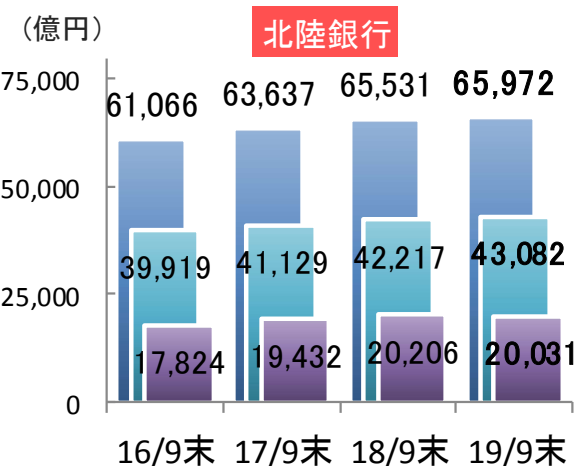
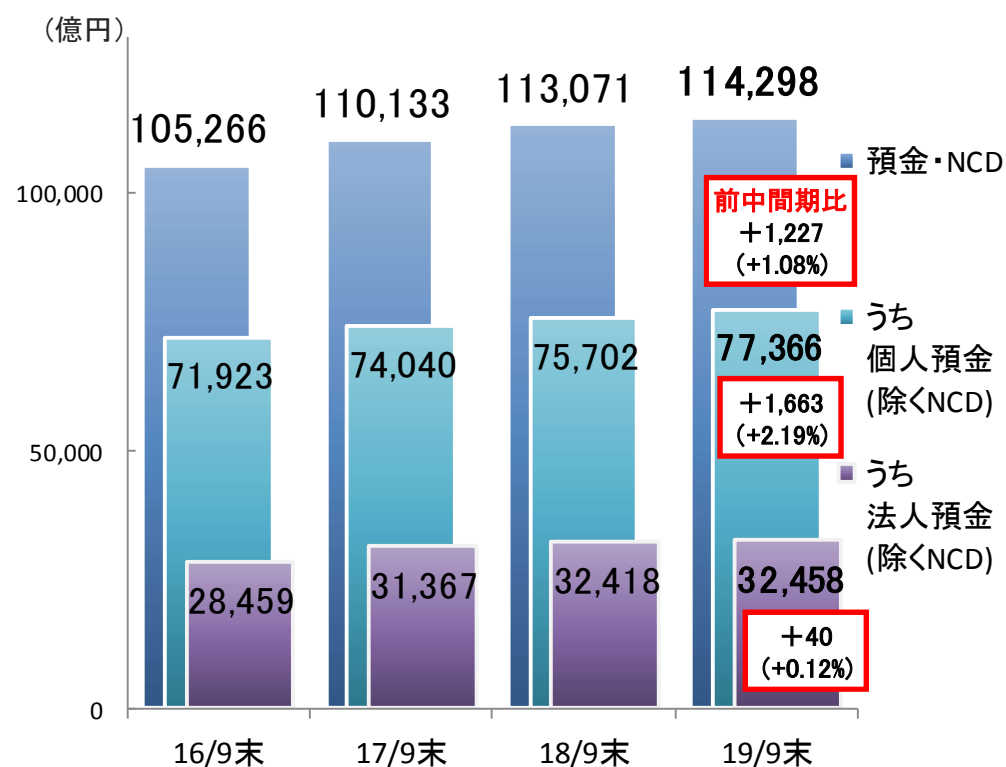


預金・譲渡性預金

預金残高は、北陸銀行・北海道銀行ともに増加し、前中間期比1,227億円増加の11兆4,298億円となりました。

預金・NCD残高

2行合算

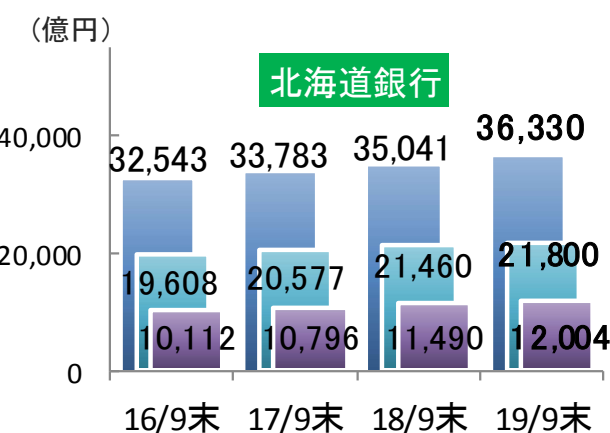
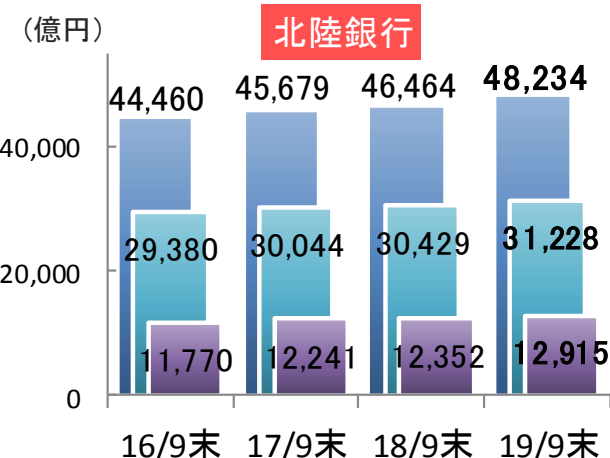
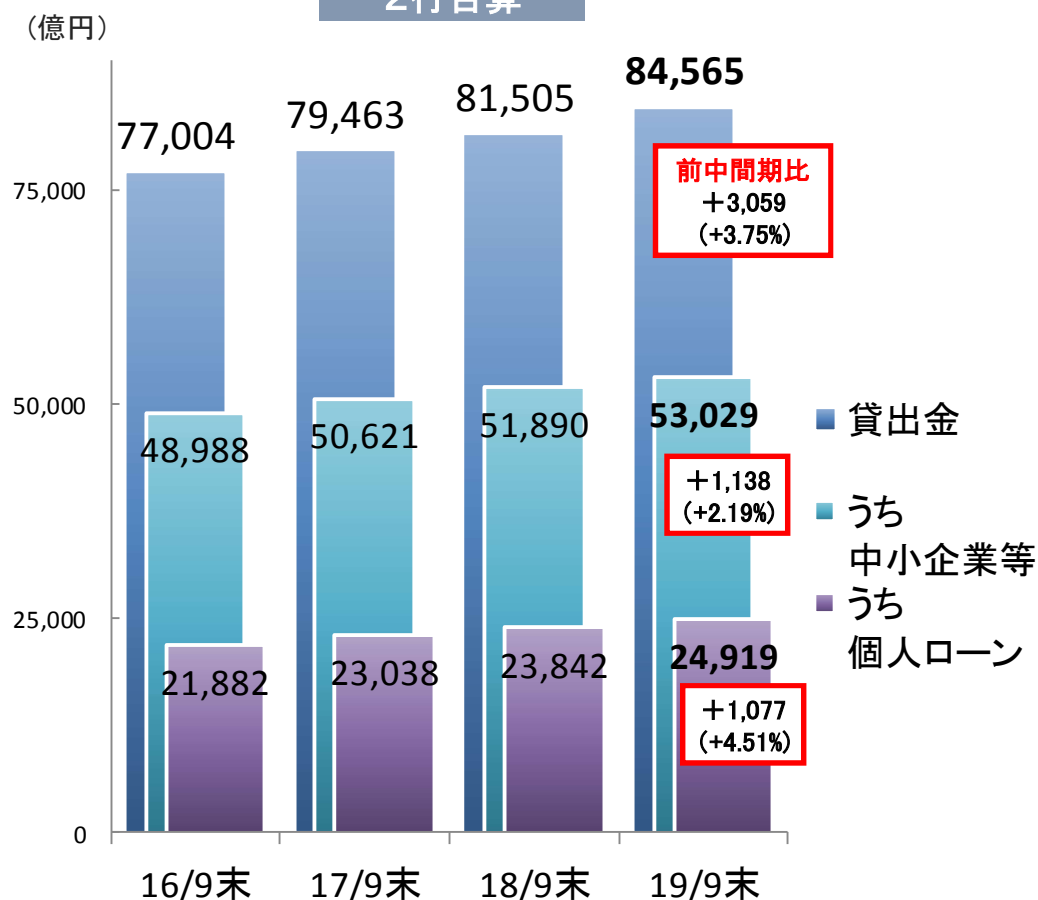


貸出金

貸出金残高は、個人ローン、地方公共団体等向け貸出を中心に増加し、前中間期比3,059億円増加の8兆4,565億円となりました。

貸出金残高

2行合算

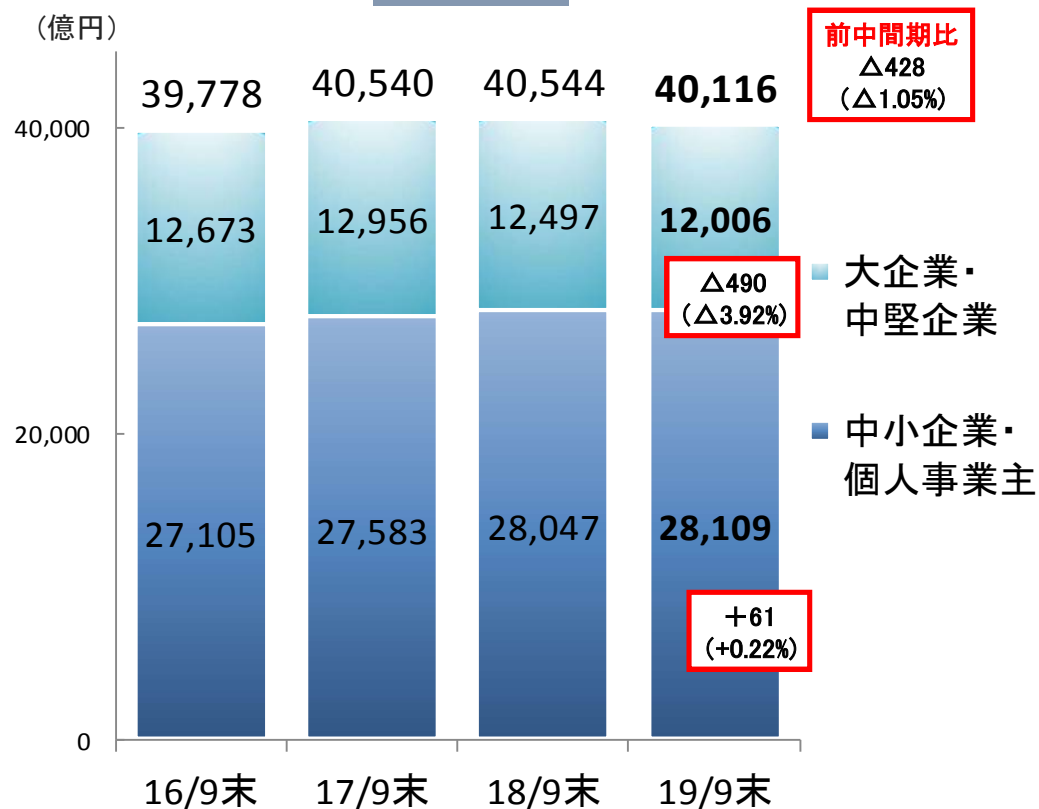


貸出金（事業性）

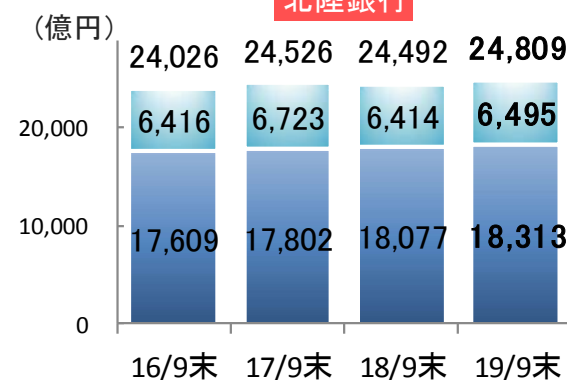
事業性貸出は、中小企業・個人事業主向け貸出については前中間期比61億円増加したものの、同428億円減少の4兆116億円となりました。

事業性貸出残高

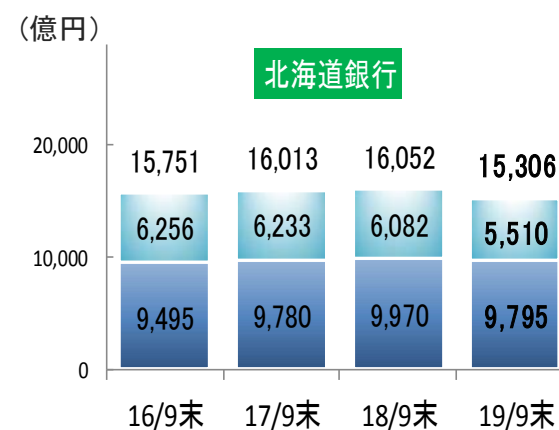
2行合算



北陸銀行



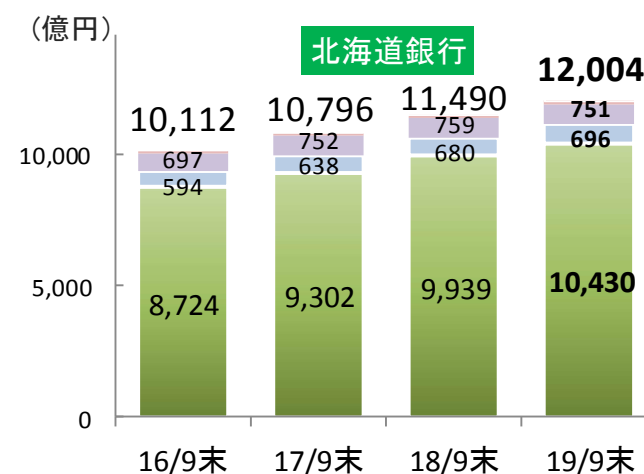
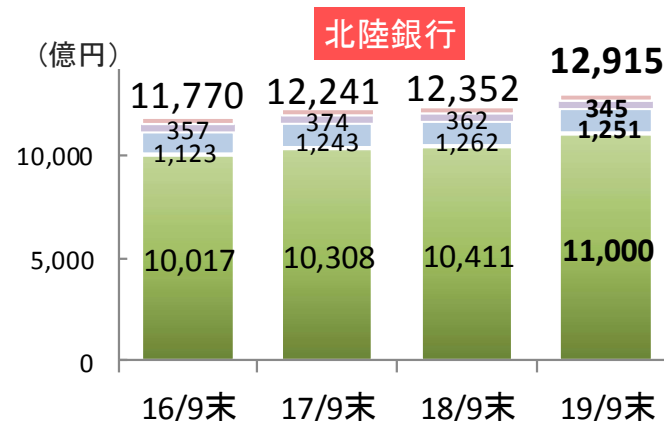
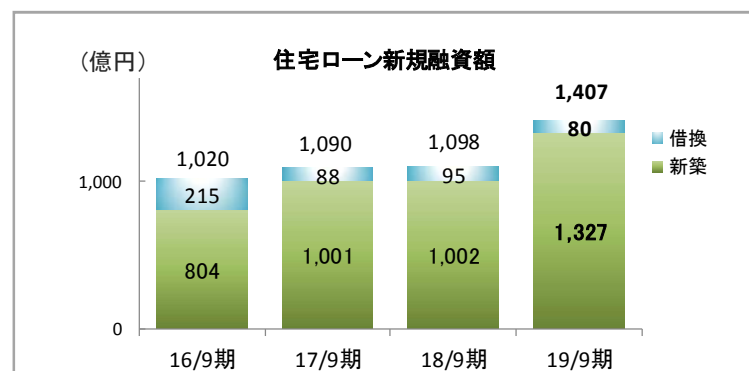
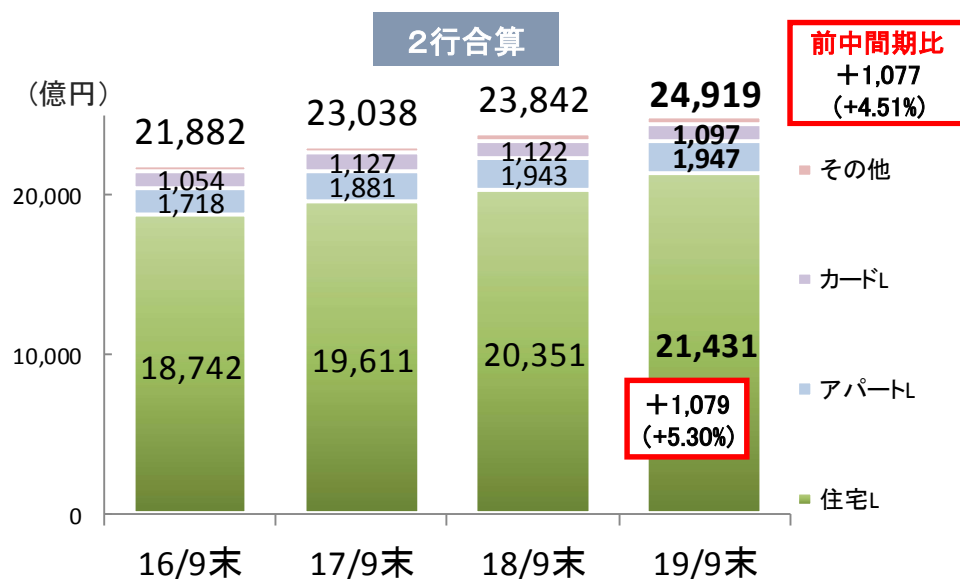
北海道銀行



貸出金（個人ローン）

個人ローンは、住宅ローンを中心に残高を伸ばし、前中間期比1,077億円増加の2兆4,919億円となりました。住宅ローンの新規融資額は1,407億円となり、中間期の過去最高額を更新いたしました。

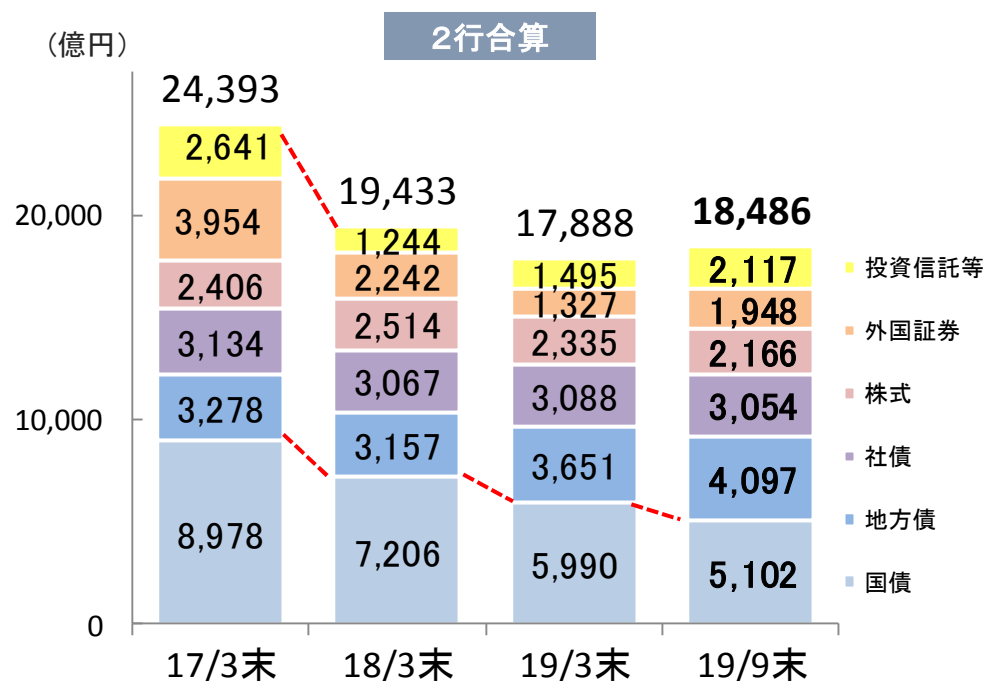
個人ローン残高



有価証券

有価証券中間期末残高は、満期償還により国債が減少しましたが、地方債や外国証券、投資信託を中心に積上げし、前期末比597億増加の1兆8,486億円となりました。
その他有価証券の評価損益は1,221億円の評価益となっております。

有 価 証 券 残 高



円債デュレーション (2行合算)

17/3末	18/3末	19/3末	19/9末
3.14年	3.08年	3.08年	3.40年

※ヘッジ考慮後

有価証券の売買損益と評価損益

【2行合算】		19/9期		増減額	18/9期
有価証券利息		116	△ 18		135
円債		42	△ 5		47
株式		28	△ 6		34
その他		46	△ 7		53
有価証券の売買損益		42	30		11
国債等債券損益		37	47		△ 9
株式等損益		4	△ 16		21
【2行合算】		19/9期		増減額	19/3期
その他有価証券の評価損益		1,221	△ 38		1,260
債券		129	△ 19		149
株式		935	△ 121		1,056
その他		155	101		54

役務取引等利益

投資信託手数料の減少等により、役務取引等利益は前中間期比3億円減少の80億円となりました。

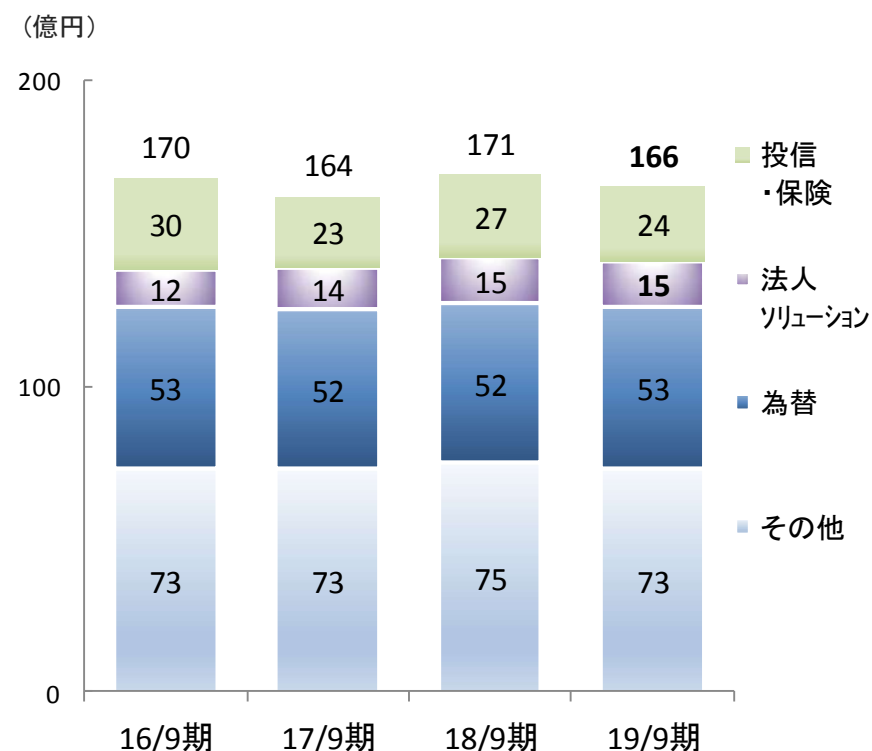
非金利収入

		(億円)	
【2行合算】		19/9期	18/9期
(1) 役務取引等利益		80	83
役務取引等収益		166	171
うち受入為替手数料		53	52
うち投信手数料		12	15
うち保険手数料		12	12
うち法人ソリューション(※)		15	15
役務取引等費用(△)		86	87
うち支払為替手数料(△)		9	9
うちローン保険料・保証料(△)		60	59
(2) 特定取引利益		0	0
(3) その他業務利益(除く5勘定戻)		4	4
うち外為売買損益		4	4
(4) 非金利収入計 (1)+(2)+(3)		85	88
(5) コア業務粗利益		613	640
(6) 非金利収入比率 (4)/(5)		13.91%	13.78%

※法人ソリューション…私募債、シンジケートローン、コンサル(M&A、事業承継など)、
ビジネスマッチングに関する手数料

役務取引等収益

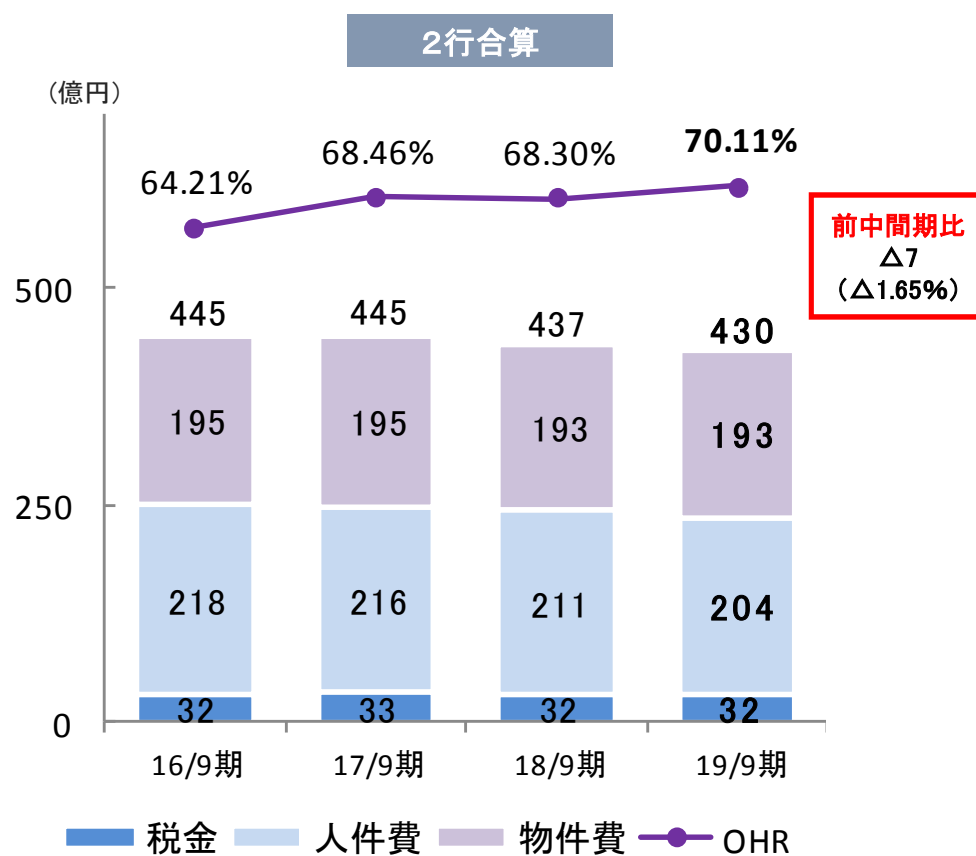
2行合算



経費

経費は、業務の集中化・効率化の取り組みを通じ、人件費が減少したことにより、前中間期比7億円減少の430億円となりました。

経費・OHR



$$\text{OHR} = \text{経費} \div \text{コア業務粗利益}$$

増減要因

(億円)

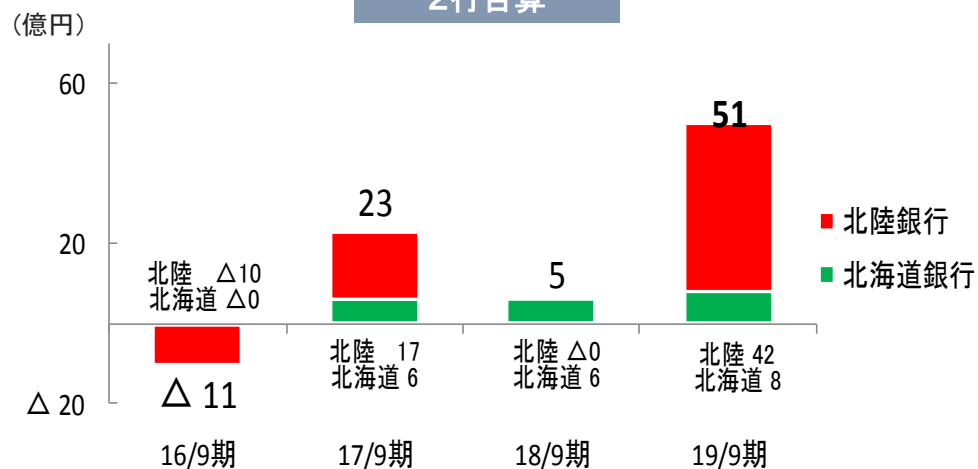
【2行合算】	19/9期	増減額	18/9期
人件費	204	△ 7	211
物件費	193	0	193
税金	32	△ 0	32
経費	430	△ 7	437

与信費用

与信費用は、貸倒引当金繰入額の増加により、前中間期比45億円増加の51億円となりました。

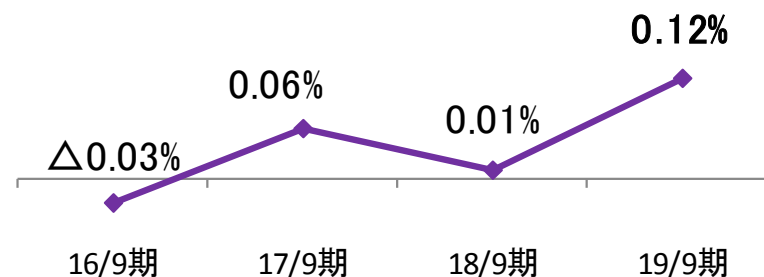
与信費用

2行合算



与信費用比率

2行合算



与信費用比率＝与信費用÷貸出金平残

与信費用要因

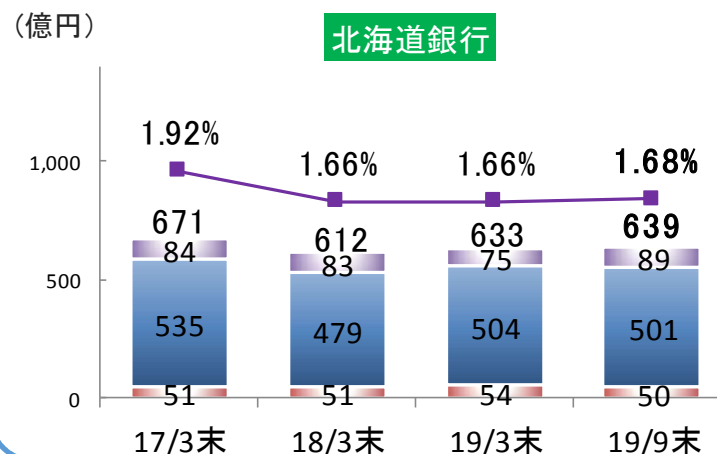
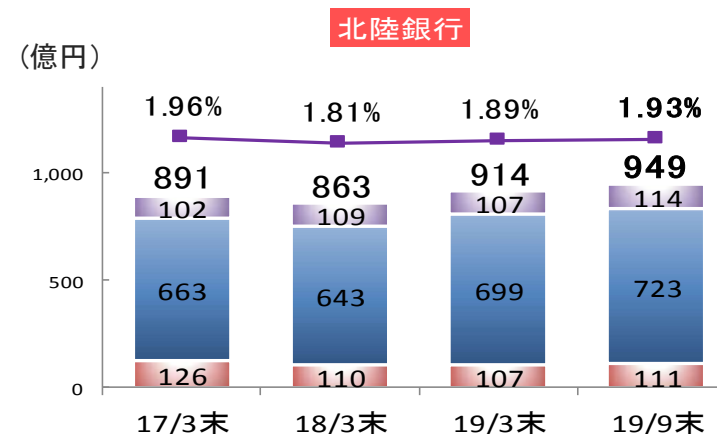
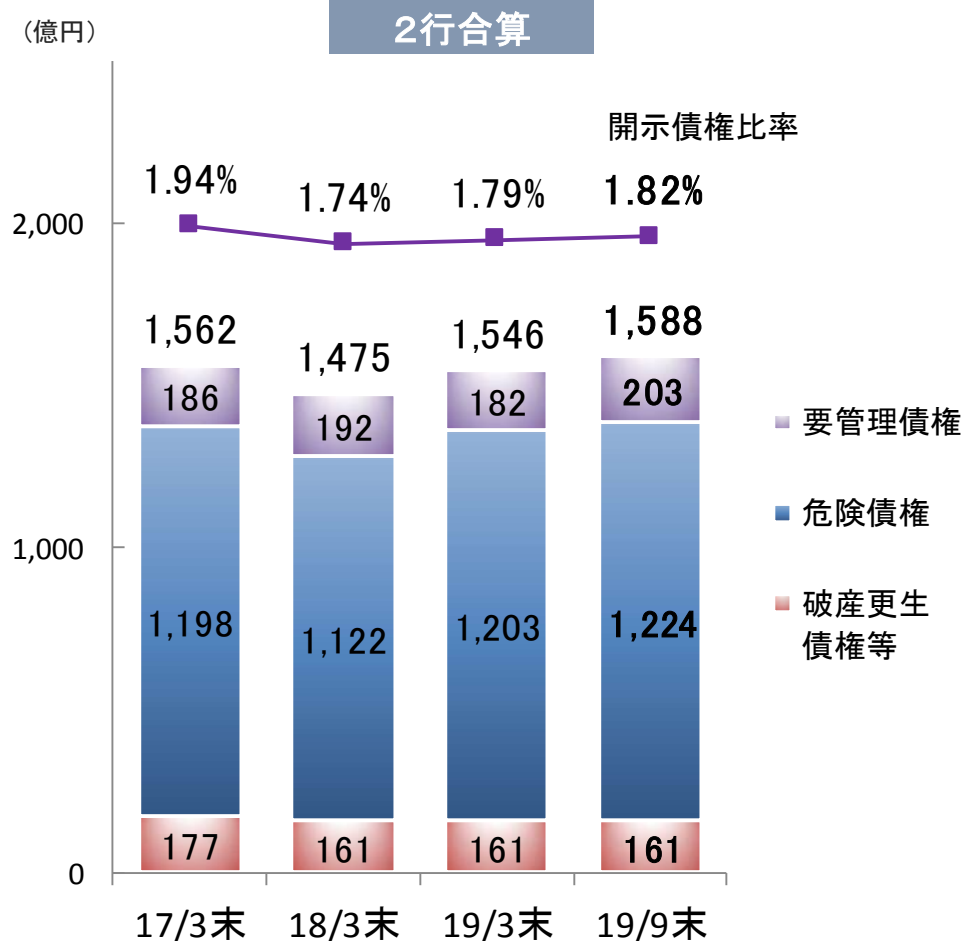
【2行合算】

	(億円)		
	19/9期	増減額	18/9期
与信費用	51	45	5
一般貸倒引当金繰入	11	12	△0
不良債権処理額	39	33	6
うち一般貸倒引当金戻入	-	8	△8
うち個別貸倒引当金繰入	38	23	14

金融再生法開示債権

金融再生法開示債権残高は、前期末比41億円増加の1,588億円、開示債権比率は1.82%となりました。

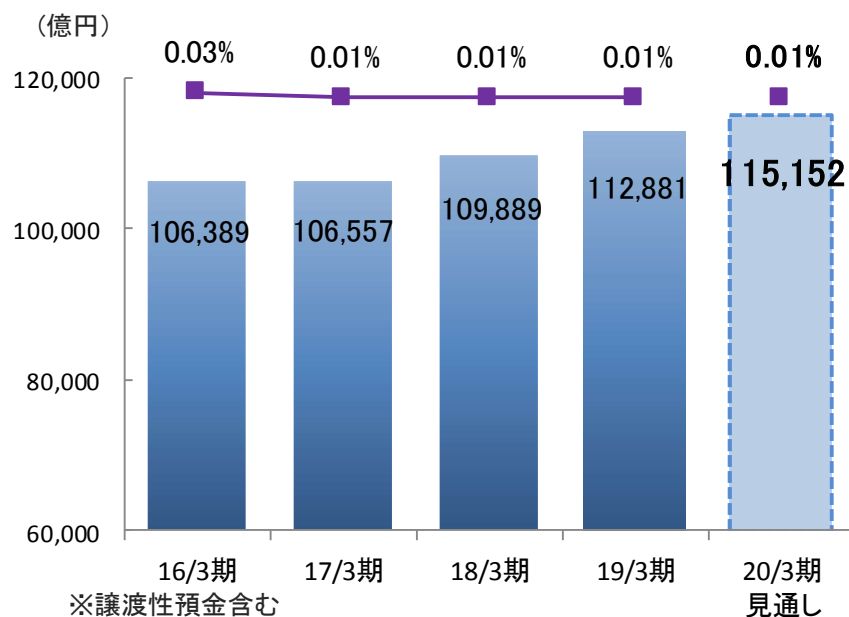
金融再生法開示債権



預金・貸出金見通し

預金 平均残高・利回り

2行合算

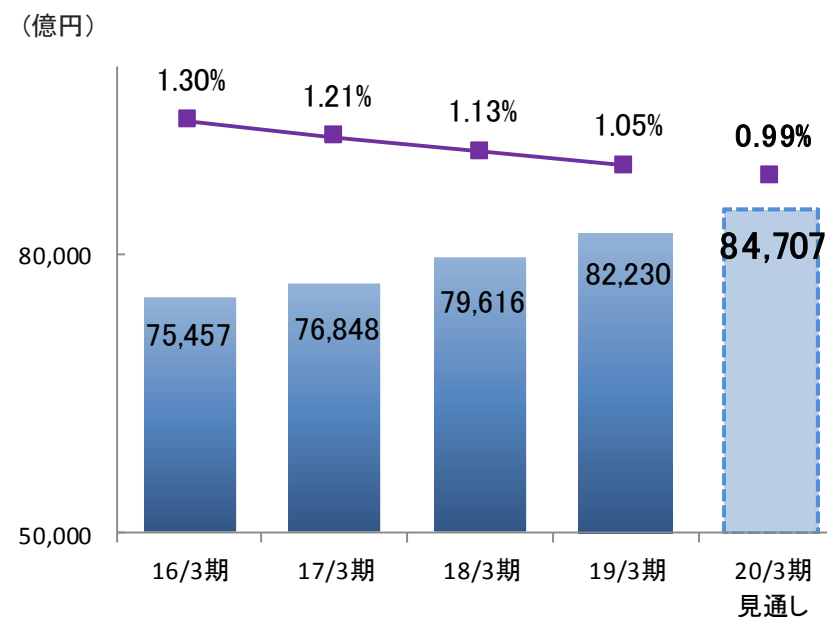


(億円)

【2行合算】	19/3期実績 (A)	19/9期実績	20/3期見通し (B)	増減額 (B-A)
平均残高	112,881	115,227	115,152	2,270
利回り	0.01%	0.01%	0.01%	△ 0.00%
支払利息	12	5	11	△ 1

貸出金 平均残高・利回り

2行合算



(億円)

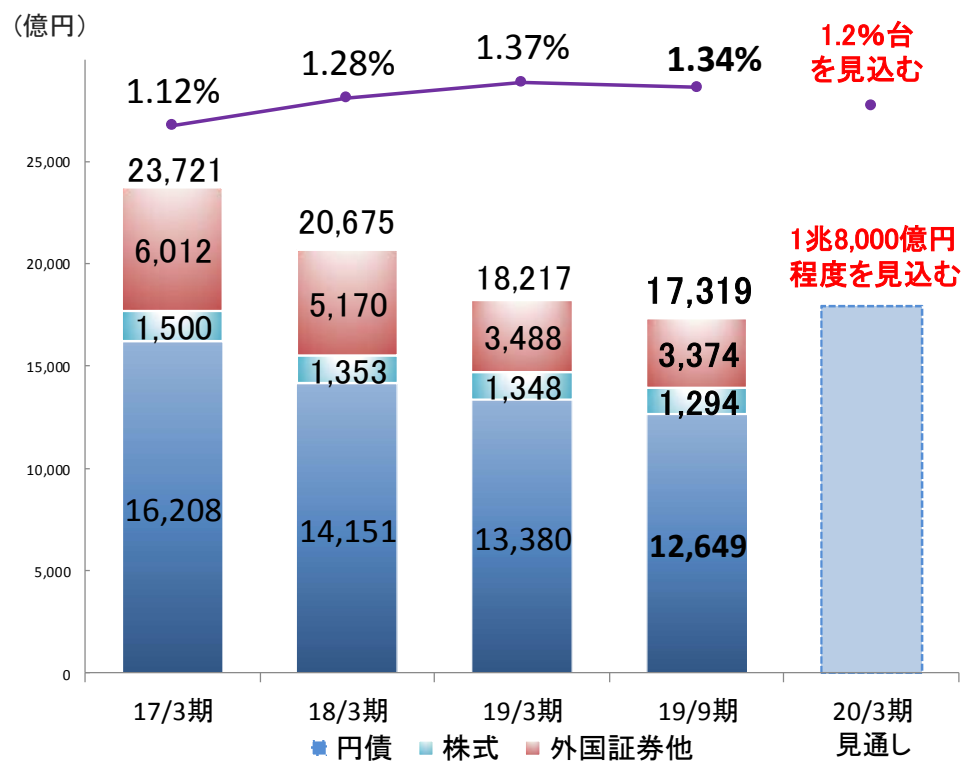
【2行合算】	19/3期実績 (A)	19/9期実績	20/3期見通し (B)	増減額 (B-A)
平均残高	82,230	83,827	84,707	2,477
利回り	1.05%	1.00%	0.99%	△ 0.06%
受取利息	866	421	846	△ 20

有価証券見通し

有価証券運用については、円債の大量償還を見据え、運用の多様化による分散投資によりリスクをコントロールしながら、利息・配当収入を底上げしつつ、市場環境見通し等を踏まえ、戦略的・機動的に、フロー収益を確保していくこととしています。

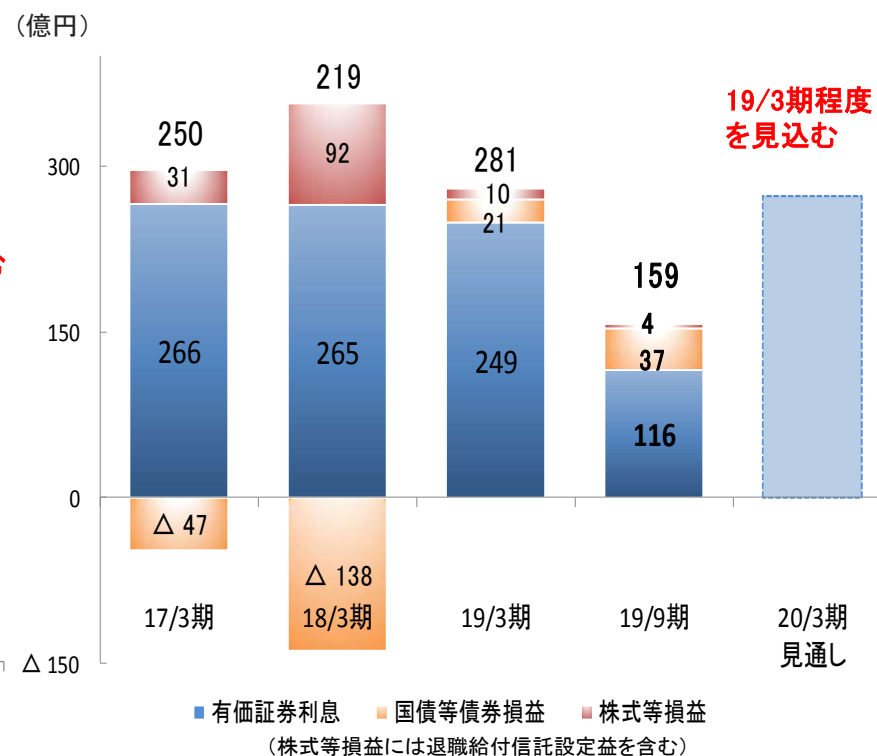
有価証券 平均残高・利回り

2行合算



有価証券関連収益

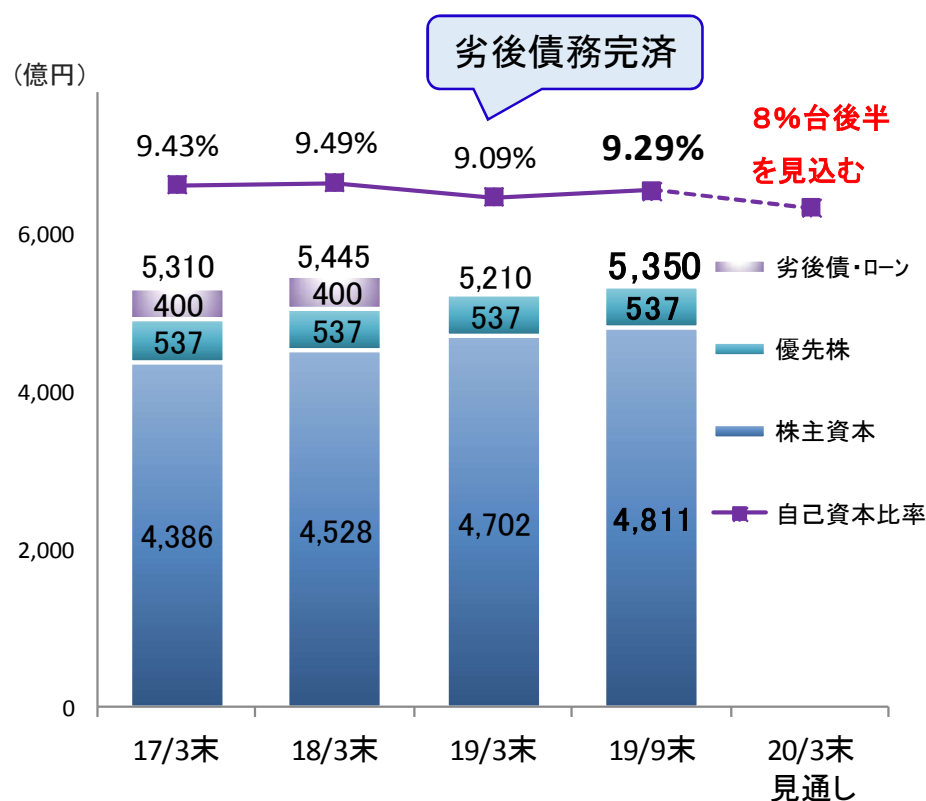
2行合算



自己資本比率

連結自己資本比率は、利益による剰余金の積上げにより、前期末比0.20ポイント上昇し9.29%となりました。2019年10月1日には、第1回第5種優先株式537億円の10%を一部償還させていただきましたが、2020年3月期末見通しは、8%台後半を見込んでいます。

連結自己資本比率



自己資本・リスクアセット

〈バーゼルⅢ国内基準〉

【FG連結】	経過措置適用			完全実施(試算)		
	19/9末	増減額	19/3末	19/9末	増減額	19/3末
自己資本	5,350	139	5,210	4,764	139	4,625
基礎項目	5,519	123	5,395	4,932	123	4,809
調整項目(△)	168	△ 15	184	168	△ 15	184
リスクアセット	57,568	276	57,291	57,432	277	57,155
自己資本比率	9.29%	0.20%	9.09%	8.29%	0.20%	8.09%

ROE

	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	19/9
連結	5.8%	5.5%	5.3%	5.1%	3.6%	4.0%	3.7%
2行合算	6.4%	5.9%	5.8%	5.7%	4.4%	4.8%	4.5%

業績予想

2020年3月期 通期業績予想

(億円)

<FG連結>	20/3期 業績予想	前年度比
経常利益	315	△ 38
親会社株主に帰属する 当期純利益	195	△ 48

	【2行合算】		【北陸銀行単体】		【北海道銀行単体】	
	通期予想	前年度比	通期予想	前年度比	通期予想	前年度比
コア業務粗利益	1,240	△ 17	670	△ 21	570	4
経費(△)	870	4	465	0	405	3
コア業務純益	370	△ 21	205	△ 21	165	0
与信費用(△)	85	38	60	31	25	7
経常利益	330	△ 37	190	△ 31	140	△ 5
当期純利益	220	△ 46	120	△ 35	100	△ 10

2020年3月期 配当予想

	中間配当	期末配当	年間予想
普通株式	—	40円00銭	40円00銭
第5種優先株式	7円50銭	7円50銭	15円00銭

(円)

11/3～13/3 期	14/3 期	15/3～16/3 期	17/3～19/3 期	20/3 期予想
37.50	40.00	42.50	44.00	40.00

2016年10月1日を効力発生日として「普通株式10株を1株とする株式併合」を実施しています。(上記の配当実績は過年度と比較のため「併合後の1株当たりの配当金額」としています。)

(参考) 当期純利益推移

(億円)

11/3 期	12/3 期	13/3 期	14/3 期	15/3 期	16/3 期	17/3 期	18/3 期	19/3 期	20/3 期予想
184	141	181	273	282	288	281	211	243	195

Ⅱ. 経営戦略

中期経営計画「ALL for the Region」

目指す姿

地域No.1の金融サービスの提供によりお客さまと地域社会に貢献することで、共通価値を創造し、地域と共に成長・発展する総合金融グループ

ほくほくFG
北陸銀行 北海道銀行
その他の関連会社

No.1サービス
ソリューション

共通
価値の
創造

信頼と選択

お客さま
地域社会

《中期経営計画》

名称

ALL for the Region

位置付け

当社グループ全役職員が、「Face to Faceのお客さまに寄り添ったサービス」と、「利便性を追求したデジタル金融サービス」の両面で進化し、持続的に地域に貢献する体制構築に取り組む期間

基本方針

「地域社会発展への貢献」

• 共に課題に向き合い、地域とお客さまの発展に資するソリューション提供に努める

「未来への進化・変革」

• 技術革新やニーズの変化を捉えた金融サービスを提供しお客さまの期待に応える

「グループ総合力の発揮」

• グループ連携を強化するとともにグループ最適の推進・管理体制を構築する

共通価値
の創造

お客さまと地域社会の課題に応えるサービス提供により、共通価値を創造する

お客さまの課題

資産形成
次世代への資産継承
成長戦略
事業承継問題
AI・IoTへの対応

地域社会の課題

少子高齢化
人口減少
都市部一極集中
ESG・SDGsの課題



金融機関の課題

超低金利の長期化
異業種からの参入
公的金融機関等の業務拡大



経営理念

地域共栄

公正堅実

進取創造

活用する資本

財務資本

地銀No.5の資産規模

人的資本

勤勉で強固な人財

知的資本

地銀トップクラスの
ノウハウと外部連携活用

社会・関係資本

厚い地域シェアと
広域ネットワーク

自然資本

北海道・北陸の
豊かな自然

中期経営計画

グループ総合力の
発揮

地域社会
発展への貢献

未来への
進化・変革

各ステークホルダー へ提供する価値

株主

- 株主還元の充実
- 中長期的な株主価値の創造
- 透明性の高い情報開示

地域社会

- 地域活性化
- 責任ある投融資の推進
- 金融リテラシーの向上
- 環境負荷軽減
- 循環型社会の実現

お客さま

- 金融資産の活性化
- 円滑な事業・資産の承継
- 事業成長支援
- 地域中核産業支援
- 利便性の高い充実したサービスの提供

従業員

- 働きがいのある職場
- ダイバーシティ推進
- ワークライフバランス推進

経営理念の実践

=

お客さまと地域社会の
課題解決

地域社会への還元、各ステークホルダーとの対話による課題の共有

「Face to Faceのお客さまに寄り添ったサービス」と、「利便性を追求したデジタル金融サービス」の両面を進化させ、有価証券関連収益を除く「本業利益」をこの3年間で大幅に引き上げることを目指しております。

重点指標

	2019/3期 (実績)	2019/9期 (実績)	前期比	2022/3期 (年度目標)
本業利益（2行合算）＊	86億円 (中間期)	78億円	▲ 8 億円	220億円以上
当期（中間）純利益 (連結)	139億円 (中間期)	116億円	▲ 23億円	220億円以上
自己資本比率（連結）	9.09%	9.29%	+ 0.20%	8%台維持
コア業務粗利益ベース OHR（2行合算）	68.85%	70.11%	+ 1.26%	60%台

＊「コア業務純益－有価証券利息損益（外貨調達コスト除くネット損益）」にて算出

金融仲介機能発揮

◆ 外部機関を活用した経営改善の取組みを強化

外部コンサルティング会社等と連携し、外部環境分析、経営課題の仮説立て等を実施

◆ 深度ある実態把握と経営改善支援

経営改善の課題・改善策を明確にするため、SWOT分析を用いた事業性評価やPDCAサイクルによるモニタリング等により、きめ細かく企業支援活動を実施

◆ 経営者保証に依存しない融資の促進

既存の保証契約見直し、保証債務の整理などにあたっては「経営者保証に関するガイドライン」に基づいた適切な対応を実施

事業性評価に基づく融資先数(先)

6,219

6,728

2019/3末実績

2019/9末実績

中小企業向け融資残高(億円)

28,047

28,109

2018/9末実績

2019/9末実績

＜農業法人への出資および経営支援＞（北海道銀行）

・2019年7月に、北海道銀行は、農業法人「合同会社 OMEGAファーマーズ」への出資及び代表社員の派遣を行う経営支援を実施しました。

・北海道農業の担い手不足は深刻な問題であり、今後耕作放棄地の増加も懸念されています。

これらの課題に対し、マネジメントおよび経営資源の集中による「農業経営の企業化」に取り組むことで、北海道農業の発展に貢献することを目的としています。



＜地域経済活性化支援機構（REVIC）との連携＞

・地域経済活性化支援機構（REVIC）、中小企業再生支援協議会、経営改善計画策定支援事業（早期経営改善支援含む）など外部機関を活用した経営改善の取組みを強化しています。

・また、REVICの特定専門家派遣制度を活用して、勉強会を実施し、人材の育成に取り組んでいます。



＜公的助成申請サポートによる創業等の支援＞

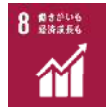
・公的助成制度の紹介や申請書策定支援により、お取引先の新規事業意欲を後押しし、事業多角化をサポートしています。

・補助金申請を検討・準備しているお取引先に対して、北陸銀行および北海道銀行（道銀地域総合研究所と連携）にて、専門家によるアドバイスや申請支援・採択後の実施支援をおこなっています。

法人コンサルティング強化

◆ビジネスステージに応じたコンサルティング提案の推進

創業期、成長期、再生期などのステージに応じた各種支援（商談会やセミナーなど）を実施



◆「人材紹介業務」へ参入（北陸銀行）

広域店舗とコンサルティング機能を活かし、お取引先の経営幹部人材、専門技術人材等の人材確保の取組みを支援するため、「人材紹介業務」へ参入

◆「震災時元本免除特約付き融資」取扱い開始

お客さまの大地震発生時の事業の継続・復旧対策を財務面から支援

法人ソリューション（※）収益（百万円）



※法人ソリューション…私募債、シンジケートローン、コンサル（M&A、事業承継など）、ビジネスマッチング

◆「震災時元本免除特約付き融資」の取扱開始

- ・2019年4月より、北陸銀行、北海道銀行では、融資商品「震災時元本免除特約付き融資」の募集を開始しました。
- ・地域金融機関としてお客さまの大地震発生時の事業の継続・復旧対策を財務面から支援し、地域経済の発展に取り組んでまいります。

※「震災時元本免除特約付き融資」の特徴

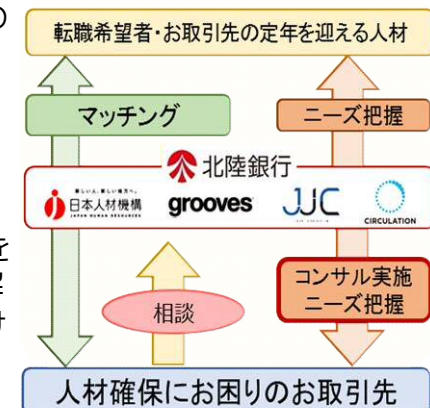
予め特定された震度観測地点において、震度6強以上の地震が発生した場合に、融資元本の100%または50%が免除となる特約が付された融資です。

◆「人材紹介業務」へ参入（北陸銀行）

・2019年7月より、北陸銀行では、人材紹介業者4社と提携し、「人材紹介業務」へ参入しました。人材ニーズを有する企業に対し北陸銀行が窓口となり経営層や管理者層、専門的な知識を持つ人材などを紹介するもので、お取引先の経営戦略の策定・実行支援から経営人材等の採用に至るまでのコンサルティングサービスがワンストップで提供できる体制を整えました。

・銀行本体が人材紹介業務の免許（有料職業紹介事業の許可）を取得するのは、北陸三県に本店を置く金融機関で初めてとなります。

・人材紹介業務を通じ、都市部人材の地元地域への還流を促し、お取引先の経営課題解決、持続的成長の実現に向けた支援を行っていきます。



個人コンサルティング強化（預かり資産） 個人取引基盤の拡大

◆ 積立型商品の推進

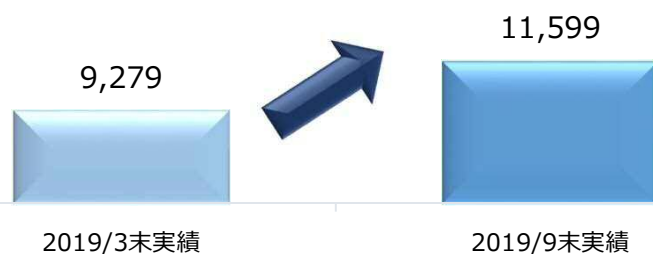
お客様の資産形成に資する最適なお提案の実践

◆ ライフステージに応じたコンサルティング機能強化

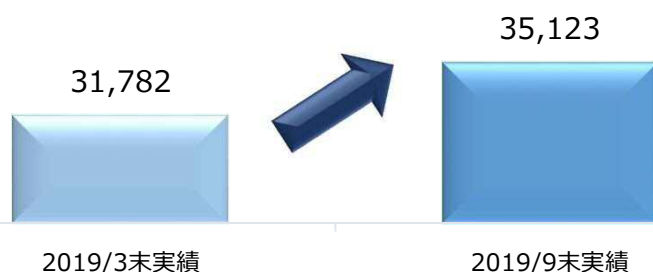
銀行本体での信託サービスの提供（北陸銀行）



つみたてNISA・ジュニアNISA先数（先）



積立型投資信託保有先数（先）

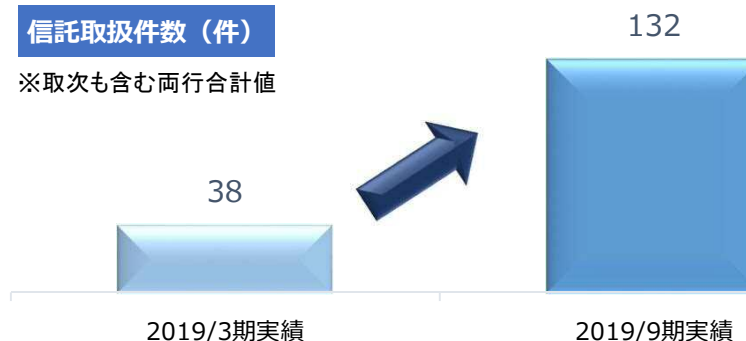


◆ 信託業務の取扱いを開始（北陸銀行）

- ・北陸銀行では、信託業務兼営の認可を取得し、2019年4月より銀行本体で信託業務の取扱いを開始しました。
- ・高齢化社会が進行する中、お客様の資産承継ニーズは年々高まっておりますが、そのニーズにしっかりと応えるため、お客さまの資産管理・承継ニーズにワンストップでのサービス提供を可能といたしました。

信託取扱件数（件）

※取次も含む両行合計値



個人コンサルティング強化（ローン推進）



◆WEB申し込みフォームリニューアル（北陸銀行）

・2019年3月より、北陸銀行にて、ホームページからの住宅ローンWEB申し込みが、スマホ・パソコンでより簡単かつスピーディーにご利用できるようになりました。リニューアルにより、事前お申し込み時のご来店も不要になりました。

◆住宅ローンの商品内容見直し

・北陸銀行では、2019年4月に、「ほくぎん住宅ローン」の商品内容を一部改定（※）いたしました。

※金利条件の改定（ご融資実行時ではなく、お申し込み時点の金利を適用）

※年収制限撤廃（安定的かつ継続的な収入がある方）

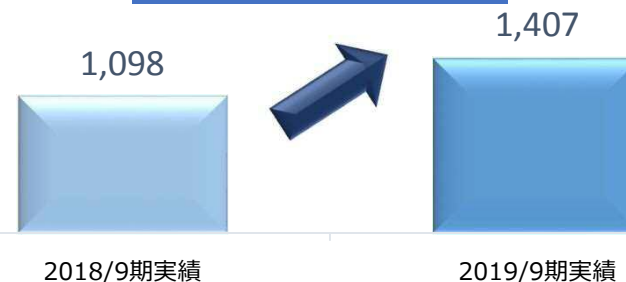
・また、2020年1月10日より住宅ローンご利用の際にご加入いただく団体信用生命保険に、北陸三県の金融機関では初となる「八大疾病保障付き夫婦連生団体信用生命保険（※）」の取扱開始を予定しています。

・北海道銀行においても、2019年10月に最長期間の見直しなど、商品改定を実施しています。

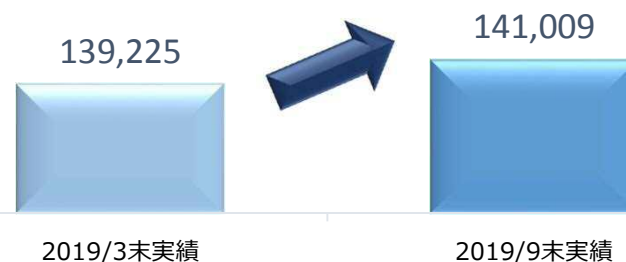
・今後も引き続き、両行ともに、商品のラインナップをさらに充実させ、より多くのお客さまのライフプランのお手伝いができるよう努めていきます。

※「夫婦連生団信」とは、ご夫婦で連帯債務方式住宅ローンをご利用いただく際、ご夫婦の「どちらか」に「死亡・高度障害」などの万一のことが、あった場合に、住宅ローンの残高が0円になる保険です。さらに、より充実した保障の提供として「死亡・高度障害」に加え、ガンなど八大疾病に対応した保険をご夫婦共に保障する商品の取り扱いを予定しています。

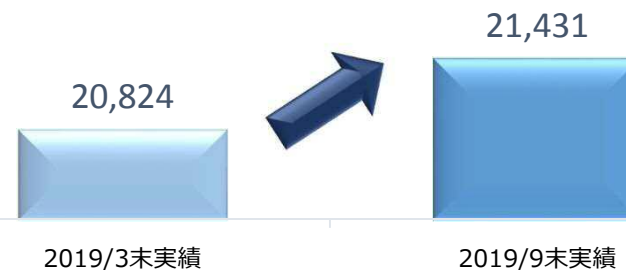
住宅ローン新規実行額（億円）



住宅ローン貸出先数（件）



住宅ローン残高（億円）



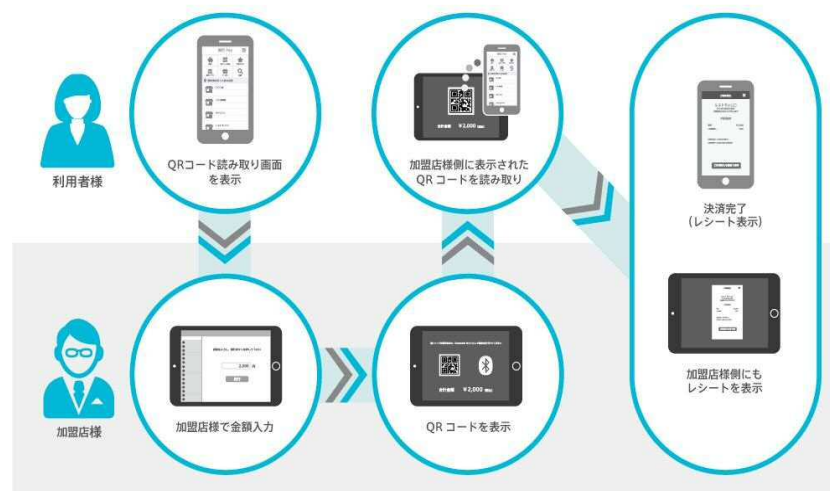
地域のキャッシュレス化推進

◆「ほくほくPay」サービス開始（2019年11月）



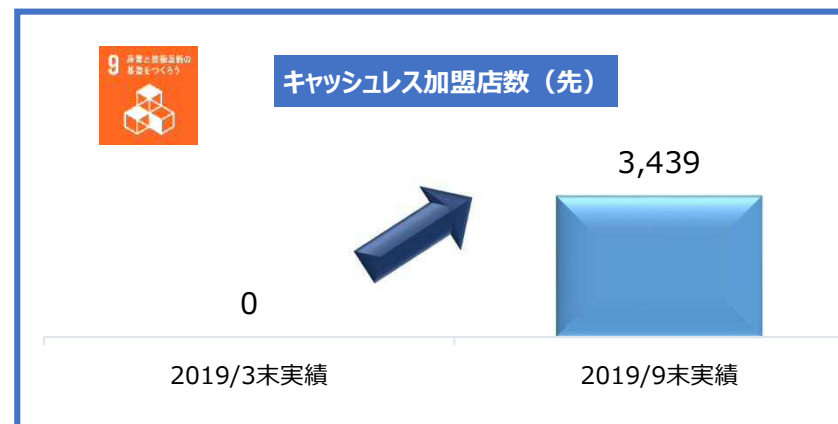
- ・2019年11月、北陸銀行、北海道銀行は、スマホ決済サービス「ほくほくPay」の取り扱いを開始しました。
- ・「ほくほくPay」とは、ほくほくフィナンシャルグループ各行と契約した店舗（以下、「加盟店」という。）で代金を支払う際、個人のお客さまがスマホアプリを操作し、加盟店側のタブレット端末等に表示されたQRコードを読み取ることで、事前に登録した銀行口座から代金を即時に引き落とすキャッシュレス決済サービスです。
- ・「ほくほくPay」はGMOペイメントゲートウェイ株式会社が提供する「銀行Pay」の基盤システムを利用しており、「銀行Pay」を導入する銀行との「マルチバンク決済」機能が順次利用開始となります。
- ・本サービスの加盟店を広げることで、地域の個人のお客さまの利便性を高めるとともに、加盟店のお客さまの集客力アップや業務効率化を支援し、地域の活性化に貢献してまいります。

＜ほくほくPayサービス利用のイメージ（決済フロー）＞



◆「StarPay」の契約取次業務開始

- ・2019年7月、北陸銀行、北海道銀行は、マルチQRコード決済サービス「StarPay」の加盟店契約取次業務を開始しました。
- ・「StarPay」は、複数のQRコード決済に一括対応するサービスで、加盟店は「LINE Pay」や「Pay Pay」などのサービスを一括で申し込みできます。
- ・本サービスの取り扱いにより、当社グループで取り扱うキャッシュレス決済ラインナップは大きく拡充され、お客さまの幅広いニーズに対応することが可能となりました。



地域社会活性化戦略～ESG/SDGsへの取り組み～

持続可能な地域社会の実現

SDGs

- ・SDGsの推進に関する富山市と北陸銀行との連携協定締結
- ・訪日旅行客をターゲットとしたメディア招聘事業（北海道銀行）
- ・ESGに配慮した環境改善に資する「グリーンボンド」を購入

経営者向けセミナー参加者数



<SDGsの推進に関する富山市と北陸銀行との包括連携協定を締結>

- ・2019年8月、北陸銀行は、富山市と「SDGsの推進に関する包括連携協定」を締結しました。SDGs推進に関する外部機関との連携協定は初めてとなります。
- ・連携協力事項では、「地域経済の活性化・産業振興に関すること」や「教育文化の振興に関すること」など7項目を掲げています。
- ・富山市と北陸銀行が相互の連携を強化し、SDGsの推進を通じて地域社会の持続的な発展を目指してまいります。



連携協定事項



1. 地域経済の活性化・産業振興に関すること
2. 安全・安心なまちづくりの推進に関すること
3. 市民の健康増進に関すること
4. 環境保全・エネルギーに関すること
5. 教育文化の振興に関すること
6. 市民サービスの向上・地域の活性化に関すること
7. その他、地域社会の持続的な発展を実現するための施策に関すること

<台湾・極東ロシア訪日旅行客をターゲットとしたメディア招聘事業を実施>

- ・2019年5月、北海道銀行は、台湾のメディア関係者へ台湾インバウンド観光客向けの北海道ならではの「食・観光」を紹介し、8月には、ロシア（ウラジオストク）のメディア関係者へロシアインバウンド観光客向けの「北海道・東北地方・新潟県の観光の魅力」を紹介しました。
- ・それぞれ北海道の観光情報として発信されることで、インバウンド観光客の誘客を目指した招聘事業を実施しました。



旭栖町での田植え体験風景



旭川市商店街を紹介

地域における金融リテラシーの向上

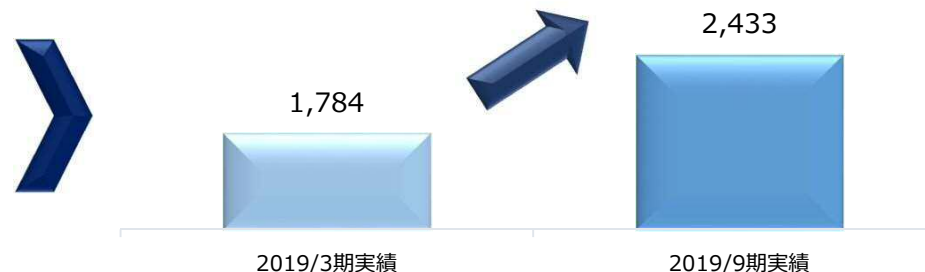


金融経済教育

- ・金融経済授業「出前授業」に全店で取り組み
- ・SDGs 実践セミナーの開催
- ・お客さま向け資産形成セミナーを開催
- ・「夏休み親子で銀行体験」を開催



金融経済教育講座参加者数



＜お客さま向け資産形成セミナー（北海道銀行）＞

- ・北海道銀行では毎月、お客さま向けの資産形成セミナーを開催しています。
- ・人生100年時代を迎える上で必要となる資産形成の考え方について、さまざまな情報提供を実施し、お客さまに学びの機会をご提供しています。



＜SDGs 実践セミナーの開催（北陸銀行）＞

- ・富山市で「ビジネスに生かすSDGs実践セミナー」を開催しました。
- ・企業や事業主を対象に、SDGsへの理解を深めていただき、SDGsに資する活動やビジネスチャンス拡大につなげていただくことを目的としております。



＜金融経済「出前授業」実施（北陸銀行）＞

- ・北陸銀行では、小中高校生はじめ若年層の金融経済教育を推進するため、全営業エリアの学校等に出向き「出前授業」を展開しております。
- ・営業店長が講師となり、お金の役割や資産形成の必要性などを学んでいただいています。



＜「夏休み親子で銀行体験」を開催（北海道銀行）＞

- ・夏休み期間中に小学生を対象とした金融教育イベント「夏休み親子で銀行体験」を開催しました。
- ・123名の子ども達が参加し、1億円の重さを体感したり、札勘体験を行い、お金や銀行について知っていただきました。



経営効率化・生産性向上と働きがいの両立

業務効率化・生産性向上

- ・RPAの活用などによる業務効率化
- ・タブレットPCの活用による生産性向上



〈RPAで業務効率化を促進〉

- ・2018年より両行導入しているRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）の対象業務拡大及び業務の見直しにより業務時間の削減を進めています。
- ・2019年度9月期までに、グループ全体で累計52,142時間の業務削減を実現いたしました。主な導入事例は右記の通りです。

〈タブレットPCの活用〉

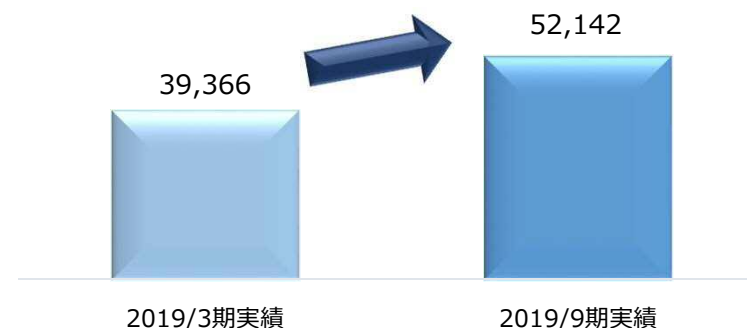
- ・当グループでは、従来のデスクトップPCに替えタブレットPCを、2017年に北陸銀行、2019年に北海道銀行にて本格導入しました。
- ・渉外業務をはじめ各種業務において、携帯の容易性と無線通信による外出先等での利便性を最大限活用した生産性向上と業務効率化を図っております。
- ・また、タブレットPCを活用したテレワーク活用の試行をすすめており、今後、グループ全体での活用を検討してまいります。

〈ダイバーシティの推進〉

- ・北陸銀行は、インテックおよび北陸電力と3社で、「輝く！COSMOS project」を設立し、子育てしながら働く女性社員を対象としたセミナーを富山市で開催しました。
- ・「仕事と家庭の両立」というテーマでディスカッションを実施し、キャリア形成や働き方を考え、モチベーション向上に繋がる機会となりました。



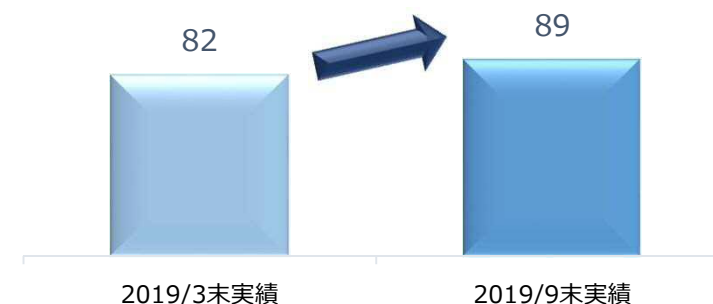
RPAによる事務削減量（時間）



両行におけるRPA導入事例

- ・税務・預金調査用データ抽出
- ・Web受付ローンの資料整理
- ・住宅ローンの照会作業、利率算出表作成
- ・稟議書添付資料の自動作成
- ・定例印刷物の自動印刷
- ・口座開設アプリ申し込み情報の分別・印刷
- ・担保再評価の集約業務

女性経営職・管理職数（名）



機能的な組織体制の構築

本部部署の名称・機能の統一

- ・2019年6月に、北陸銀行・北海道銀行の本部部署・機能の統一などを目的とした組織改編を実施いたしました。
- ・この組織改編に伴っては、両行に**デジタル戦略部**を新設した他、**グループの意思決定迅速化、業務効率化**等を目的に、ほくほくフィナンシャルグループの企画グループと両行経営企画部を一体化した新体制に移行しています。
- ・今後も、グループの連携・協業をさらに発展させ、ほくほくフィナンシャルグループ一丸となって中期経営計画に掲げる目指す姿を実現するため、機能的な組織体制の構築に努めてまいります。

外為事務3行共同化

- ・北陸銀行・北海道銀行は、横浜銀行と3行で、外国為替に関する業務のさらなる効率化実現に向け、**海外向け送金や貿易取引などの外国為替に関する事務を共同化**します（※）。
- ・横浜銀行とはこれまでも、基幹システム「**MEJAR**」の共同運営を通じ、ITコストの低減などをはかってきましたが、外国為替事務共同化を通じ、3行の外為集中業務にかかわるコストを削減するとともに、外国為替業務に係る専門人材の育成やリスク管理ノウハウの共有などの効果を見込んでいます。

<※共同化スケジュール>

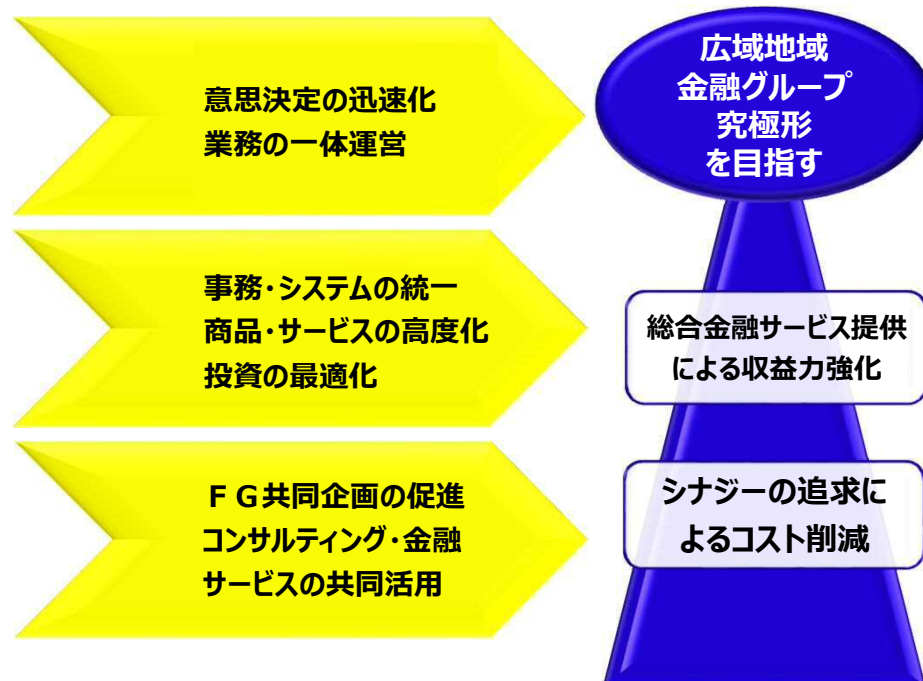
北海道銀行 … 2019年11月25日委託開始
 北陸銀行 … 2020年10月委託開始予定

次期共同利用システムについての基本合意

- ・2019年5月に、北陸銀行・北海道銀行および横浜銀行、七十七銀行、東日本銀行の5行による共同利用システム「**MEJAR**」について、ハードウェアやソフトウェアを環境の変化に応じて柔軟に選択できる「**オープン基盤**」の採用を第一候補とするシステムの検討に着手することで基本合意しました。
- ・これにより、将来的な機能の拡張性や費用面での優位性を得られ、最新技術の活用も可能となります。2023年度以降に移行の予定となっております。

北海道内信用金庫とのATM相互開放（北海道銀行）

- ・地域のお客さまの利便性向上を目指し、2019年6月に釧路信用金庫と、9月には遠軽信用金庫、10月には渡島信用金庫・北空知信用金庫とATMの相互無料提携を実施いたしました。
- ・本提携により相互のお客さまが、他行利用手数料無料でご利用いただけるATMが大幅に増加しております。



本件に係る照会先

株式会社 ほくほくフィナンシャルグループ
企画グループ(担当:寺田・谷口)

TEL:076-423-7331

FAX:076-423-9545

E-MAIL:info@hokuhoku-fg.co.jp

<https://www.hokuhoku-fg.co.jp/>

事前に株式会社ほくほくフィナンシャルグループの許可を書面で得ることなく本資料を転写・複製し、又は第三者に配布することを禁止いたします。本資料は、情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。本資料に記載された事項の全部または一部は、予告なく修正・変更されることがあります。本資料には、将来の業績に関する記述が含まれておりますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により、実際の数値と異なる可能性があります。